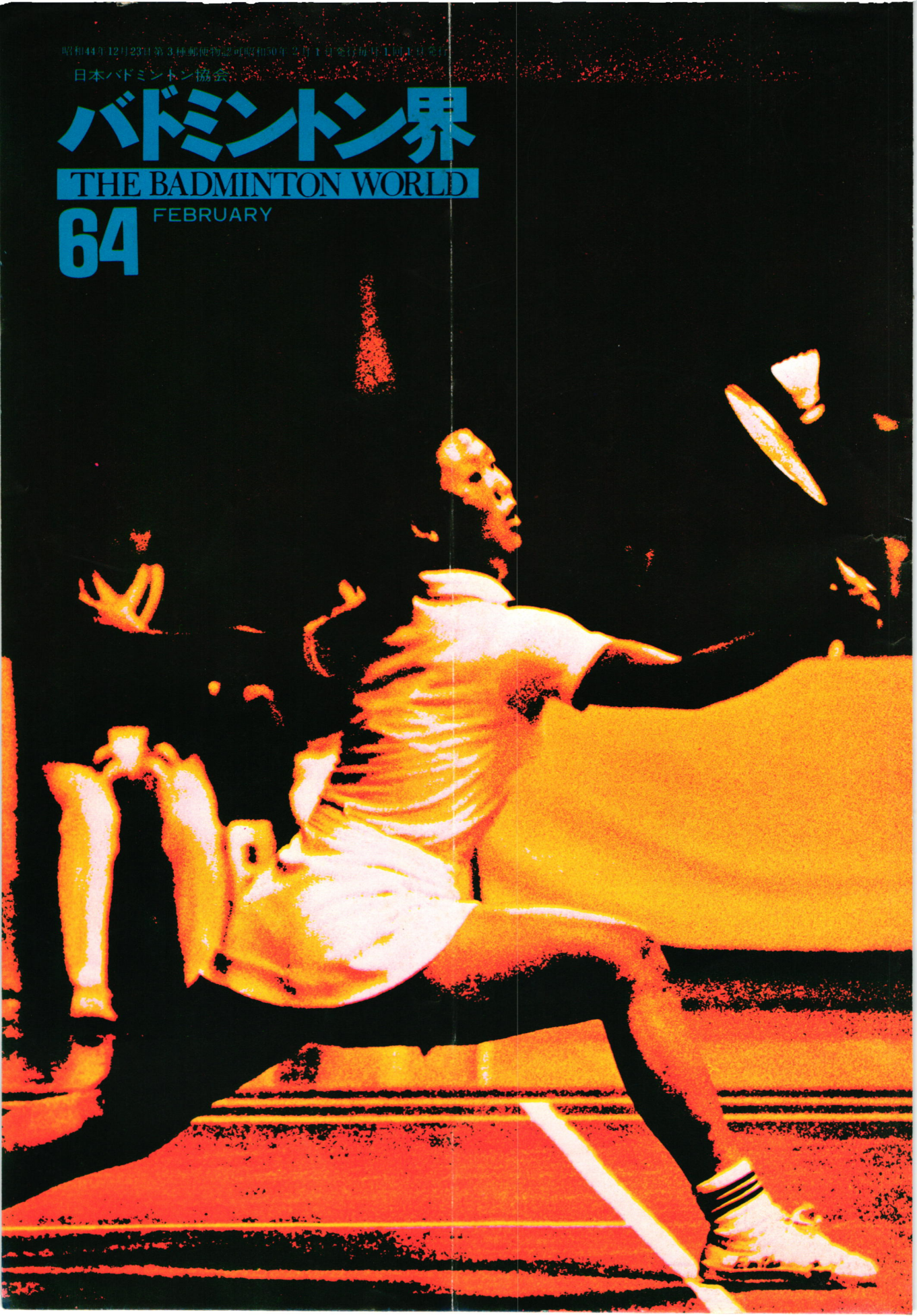
昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和50年2月1日発行毎月1回1日発行

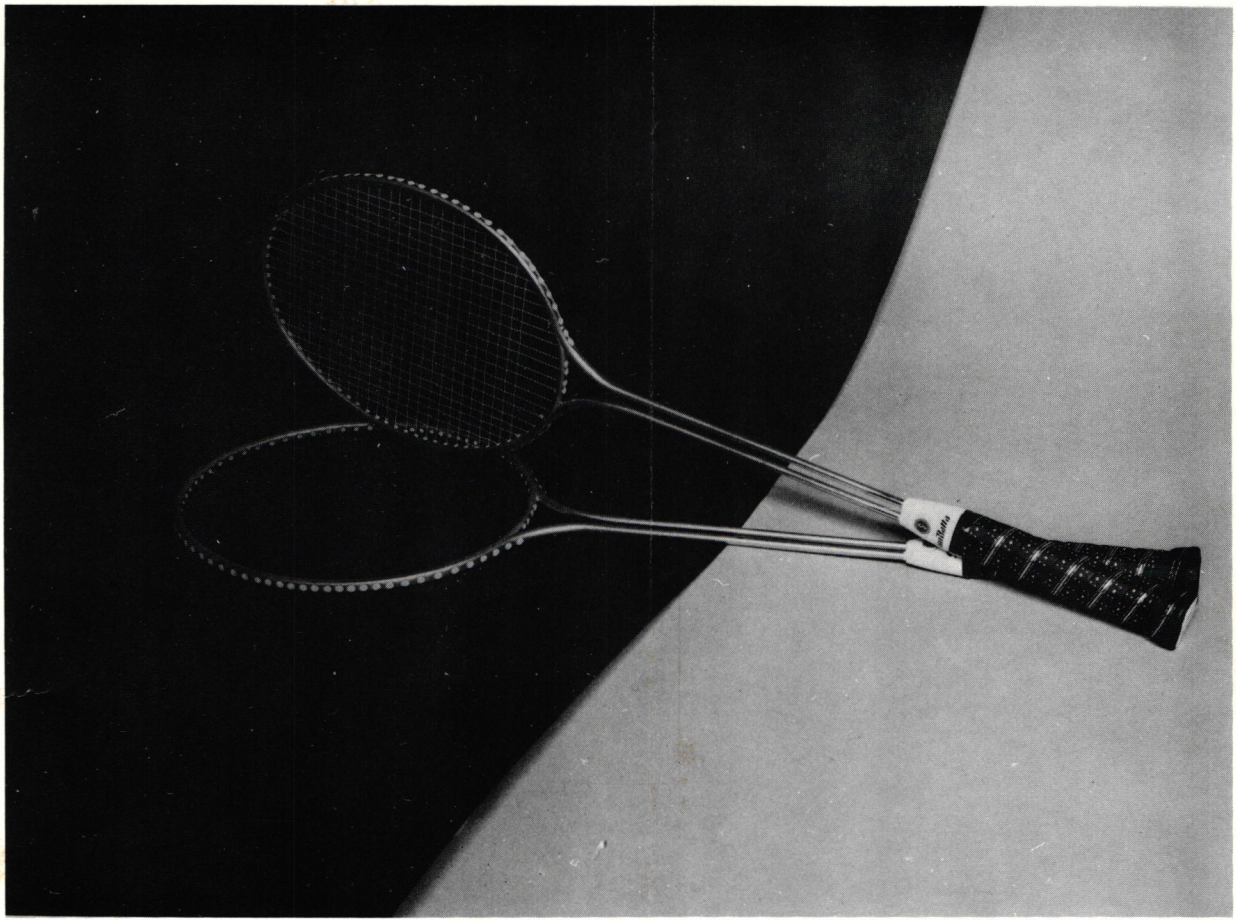
日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

64 FEBRUARY





ALL STEEL RACKET SunBatta TWIN SHAFT

究明され！
完成された！
S-74
ALL ROUND

プレーヤーが長い間求めていたオールスチールが誕生しました。
従来のオールスチールラケットの利点及び欠点をあらゆる角度から究明され改良をし今ここに完成され皆様の目の前に現われました。
ツインシャフトの採用によって、フレームとシャフトとのひねりが最小限に押えられ自由自在なショットを楽しむ事が出来るでしょう。
アタックによし、レシーブによし、それがS-74オールラウンドです。
◇フレームのみ（ケース付）￥ 5,000

SunBatta TOKYO サンバタ

THE BADMINTON WORLD・FEBRUARY 1975

バドミントン界 2月号・NO・64

表紙・本文中写真撮影・山田真市　同制作・小浜正道

■第4回国際バドミントン競技会〈日英対抗〉特集

湯木ギルクスに快勝（第一戦） 2

実力発揮のイギリスに日本一勝もできず（第二戦） 4

英国強し、最終戦も日本手が出ず（最終戦） 6

あと一本が取れず惜敗 9

余裕のイギリスチーム 10

大苦戦の日本チーム 11

スティーブンス・トレゲット組三態 12

ギルクス、ウェトナール 13

銭谷・池田・池田・栂野尾・中山 14

レセプションから 15

■GO！GO！ユ杯V4作戦

ユ杯を死守せよ 20

■トマス杯組合せ決まる

日本はアジア地区東側から出場 21

今月のトピックス 22

■第6回全日本女子チャンピオンズ・トーナメント

栄冠は今年も湯木の頭上に輝く 24

はつらつ・ヤング・エミコ 27

新星植野　池田にあと一歩 28

大型ホープ登場―ユ杯候補徳田に快勝 31

■バドミントンのすべて―ABC教室・第二回

ラケット・ウェアは念入りに選ぼう 33

各地のたより―北から南から 36

■ヨーロッパ遠征メンバーきまる

トマス杯、ユーバー杯に照準を 38

編集室から 40

第4回国際バドミントン
競技大会〈日英対抗〉

第1戦・宇都宮市県立体育館

湯木 ギルクスに完勝

宇都宮大会

日本 3（単 2—0、複 1—2）2 イギリス

▽男子シングルス
銭谷 2（15—10、10—15、15—10）1 ウエトナール

▽男子ダブルス
池田 0（10—15）2 トレゲット
栂野尾（15—18）スティーブンス

▽女子シングルス
湯木 2（11—2、11—0）0 ギルクス

▽女子ダブルス
藤井 0（5—15）2 ギルクス
沼能（9—15）ウエトナール

▽混合ダブルス
栂野尾 2（15—12）0 トレゲット
竹中（15—12）ギレス

初の統一チームを迎え熱戦

強豪同士が第一試合とは……

強行日程は酷、いい試合には十分余裕を

第四回と回を重ねた国際バドミントン競技大会。今回はこれまでのような欧州選抜チームと違い、英国一ヵ国のチームとした。もちろん同国の女子がジャカルタで開かれる第七回ユーバー杯（五月下旬～六月初旬）に欧州代表として出場するのが見込まれているためだ。シーズン前、地元の日本に招いての〝敵状視察〟、あわよくば〝精神的優位に立ちたい〟という読みが日本協会にあった。観戦するわれわれにとっても、もちろんそんなことはわかり切っていたが、それ以上に日本女子がどの程度仕上がっているのか、男子がどこまで対抗出来るかが興味の焦点だった。また、ビッグイベント開催慣れした栃木県協会の運営にも注目していた。

試合会場は代々木第二体育館に劣らないほどの収容能力を持つ栃木県立体育館。欧州最強メンバーといわれるG・ギルクス、S・ウェトナールと若手のB・ギレスに男子を加えた英国チーム来日、の前宣伝も上々で、大量の入場者があった。しかし、あまりにも〝器〟が大きすぎ、

イギリスチーム

ギリアン・ギルクス夫人
（Mrs. Gillian Gilks）
1950年生れ，73年全英選手権単準優勝，74年同，複優勝，単準優勝。ジリアン・ジルクスとも呼ばれている。

P. E. ウエトナール夫人
（Mrs. P. E. Sue Whetnall）
1942年生れ，69年，70年全英選手権複優勝，74年同混合複優勝，同複準優勝。

バーバラ・ギレス
（Miss Barbara Giles）
1953年生れ，71年ヨーロッパジュニア選手権複優勝。バーバラ・ジャイルズが正確な呼び方。

ポール・ウエトナール
（Paul E. Whetnall）
1947年生れ，69年，74年国内大会単優勝。

レイ・スティーブンス
（Ray Stevens）
1951年生れ。74年全英選手権複3位。

マイケル・トレゲット
1949年生れ。74年全英選手権複3位。

コートは館内の中央より入口側に作られている。どうも、地方などで見かける二面コート制の一面だけを利用したような感じがしたのは私だけだろうか。それでもテレビ放映用のライトに照し出されたグリーンのコートは〝ユーバー杯前哨戦〟を迎えるのにふさわしかった。

試合のオーダーは女子シングルスからはじまり混合ダブルスまで男女シングルス、ダブルス各1試合と混合ダブルス1試合の5試合制。このシリーズで最も注目された対戦カード、女子シングルスの湯木博恵×G・ギルクス戦が第一試合を入口で知らされ『まとどうして』とビックリさせられた。

この顔合わせは、来日予定のM・ベックが足の負傷で急拠来日を取りやめ、代わりにB・ギレスの起用となった英国チームで、最も実力のあるG・ギルクスを日本のエースにぶっつけたものだ。しかも、この両者、昨年の第六十四回全英選手権で女子シングルスのタイトルを賭けて争った仲である。この時は湯木がギルクスを制して二度目の栄冠を手中にした。今回も全英同様。もしくはそれに劣らない好試合展開を求めたかった。が、結果はプレー開始後、わずか12分30秒で〝カタ〟のつくものだった。寒さに弱いギルクスがシンシンと底冷えのする宇都宮の悪コンディションに本量を出せない。湯木の一人舞台で11－2、11－0と完勝した。

試合後、湯木は『彼女の実力はあんなものでない。これから調子を上げるだろう』といえば、ギルクスも『湯木は全英のときより好調なようだ』と互にけん制し合っていた。

この一戦のほかに注目に価したのは銭谷欽治×P・ウェトナール戦。日英国内チャンピオン同士の対決だ。銭谷は昨年の中国遠征以来、急激な成長をしたが、試験勉強のため十分な練習が出来ず苦戦の連続。だが、前に一歩踏み込んでヘアピンをリターン出来たのが利いて15－10、10－15、15－10とファイナル戦で逃げ切った。

この試合、あまりの激しいラリーが続き、銭谷のラケットのガットが三回も切れる有様だった。若い銭谷にとっていい薬になった一戦といえよう。地元の藤井由美子、沼能久子と対戦したG・ギルクス・S・ウェトナール組のダブルスのすばらしさにはファンも感銘を受けたに違いない。長身の二人がバタバタとコートを駆け回わるわけでもなくドッシリとホームポジションをキープ、イージー・ショットを返したあとは相手の強打をけん制するように前陣の選手（主にギルクス）が両手を高く上げてネットにへばりつく巧妙なプレー。日本では稀にしかみられない光景だった。

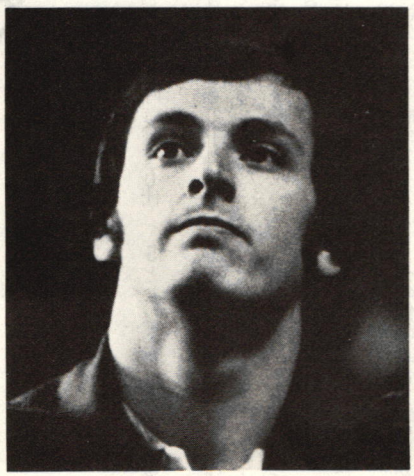
前にも述べたとおり大きな大会に慣れた栃木だけに、運営面での手ぬかりはなかったが、試合の後半で子供がバタバタと体育館内を走り回り、場内係が止める気配がなかった。バドミントンばかりか屋内スポーツは騒音をきらうもの。場内係が試合に見とれたわけでもなかろうが、もう少し静かにさせられなかったか。残念でならない。

また、英国チームの来日日程も詰っていたが、長旅のあと宇都宮入りし、翌日に試合は酷だ。いい試合を見せるためには十分な余裕を取る必要がある。羽田着後、東京で一晩を明かし、試合日の午前中に宇都宮入り、午後三時から競技開催は出来なかったか。今後の反省点といえる。

（共同通信・竹市行男）


ポール・ウェトナール


マイケル・トレゲット


レイ・スティーブンス

第2戦・仙台市宮城県スポーツセンター

実力発揮のイギリスに日本1勝もできず

これは相沢・竹中組じゃない……救いは西尾の大健闘

「これは相沢・竹中じゃあない」――何度もわが目を疑った。コンビのいいことで知られる二人が、イギリスの即席ペア、ウエトナール・ギルクスに、いいように打たれ、まん中を割られている。竹中の強打が生かせない。相沢のプッシュ・ワークが出ない――国際的に経験のない選手が、実力を持ちながら、なすすべもなく敗れるケースを何度も見たが、二人の敗戦は、そんな印象さえ与えた。

スタートからすでにおかしかった。日本のサーブで始まった試合は、相沢がいきなりサーブをミスしてサーブ権をとられ、その後2点を相沢のミスで奪われた。1点を何とか返して2―1としたものの、日本のサーブがいずれも高くあがり、攻撃の後手にまわってあっという間に4―1。

自分たちのペースを見失ったあと9―4からイギリス・ペアを左右に振って9―6と盛り返したが、その後はウエトナール・ギルクスの強打に押し切られ、結局第1ゲームは15―7。

第2ゲームにはいると、二人は完全に浮き足立っていた。いぜんとしてサーブが悪く、ドライブをストップさせられ、相手のスマッシュを下から上げる格好になり、わずか2ポイント取っただけ。15―2の完敗に終った。

イギリス・ペアは「この試合に勝てたら、六月のユーバー杯のために大いに意義がある」とすごい執念でのぞんだのに対し、日本のエース・ペアは「ユ杯の、合宿が続いて、いまとても疲れた状態」(竹中選手の話)だったという。小飼監督は「旅の疲れがある英国チームを完膚なきまでにたたいて、敵にショックを与えておけばユ杯の防衛に有利。だから英国を招待したのだ」と説明したが、思惑は見事にはずれてしまった。

勝負は水ものだから、勝ち負けはとやかく言う必要はないだろう。だが、問題は、全英選手権を二度もとった相沢・竹中組に、ベテランらしい工夫がなかったことを指摘したい。相手に打たれて劣勢に立ったのなら、打たせない方法が何かあるはず、ペースを考えないで試合をしたのでは〝新人〟と呼ばれても仕方がないだろう。

協会の強化関係者の中に「相沢・竹中は完全にマンネリだ。二人とも個人的にはそれぞれいいものを持っているのだが、ペアとしては、勝ち味をなくしてしまっている。二人の戦力を生かすためにはペアを解体する方がいいのではないか」――という意見もあったことをつけ加えておこう。

ユ杯の防衛を目ざす女子にとって、この日は悪いことばかりあったわけではない。西尾がギルクスとフルゲームをやったのは朗報というべきだろう。

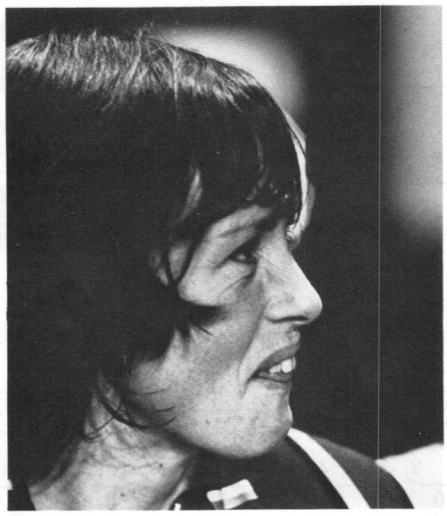
第1ゲームは完全に四つに組み、力を出しつくした西尾が11―9でとった。第2ゲームはギルクスが西尾を左右に振って強打を決め、11―2でゲームオール。「ファイナルはこのままあっさりやられるか」という見方が強かったにもかかわらず、西尾は執ように食い下がって8―4。その後10―4とマッチポイントをとられながら、サービスオーバーを六回もくり返すねばりを見せ、その間に1点返して10―5としたあたりに西尾の進歩のあとがうかがえた。

「日本の第3シングル候補は手ごわいぞ」という印象をイギリス・チームに与えただけでも大きな収穫といえるだろう。西尾自身が得た自信は、さらに大きかったに違いない。

その他の試合では男子ダブルスが好試合、第1ゲームはかんたんにとられたあと、第2ゲームは池田、栂野尾組がファイトで14―11と先行。その後猛烈な追撃にあって14―14とされた。しかし、日本ペアはここから捨て身の強打に出てセッティングの3ポイントを連取、会場を大いにわかした。

結局、国際経験豊富なイギリスペアのスピードに屈したが、第三ゲームも7―7までねばるなど大活躍、敗戦は残念だったが男子ダブルスのスピードとスリルを満喫させた好ゲームだった。

(読売新聞・小林範夫)



スー・ウェトナール



ギリアン・ギルクス



バーバラ・ギレス

イギリス 5（単 2－0、複 3－0）**0 日本**

▽男子シングルス
ウェトナール 2（15－15、15－11）0 梅野尾

▽男子ダブルス
スティーブンストン トレゲット 2（15－14、14－17、15－9）0 池田 梅野尾

▽女子シングルス
ギルクス 2（9－11、11－2、11－5）1 西尾

▽女子ダブルス
ウェトナール ギルクス 2（15－15、15－2）0 竹相 中沢

▽混合ダブルス
ウェトナール ギレス 2（15－15、15－6）0 相木 沢戸

日本チーム

池田信孝（電電東京）28歳
梅野尾昌一（ヨネックススポーツ）27歳
銭谷欽治（中央大学）22歳
木戸純一（常盤木学園高教諭）24歳　宮城県
中山紀子（神奈川県）31歳
湯木博恵（河崎ラケット工業）26歳
竹中悦子（ヨネックススポーツ）25歳
相沢マチ子（ヨネックススポーツ）25歳
池田美加（河崎ラケット工業）24歳
西尾真理子（日本体育大学）21歳
藤井由美子（旭光学益子工場）21歳
沼能久子（旭光学益子工場）20歳

最終戦・国立競技場代々木第２体育館

英国強し　最終戦も日本手が出ず

無念の完敗――これを良薬として前進せよ

・小島　一平

イギリス５（単２―０　複３―０）０日本

▽男子シングルス
ウェトナール　２（15―４　15―12）０銭谷

▽男子ダブルス
スティーブンストレゲット　２（15―７　11―15　15―９）１池田梅野尾

▽女子シングルス
ギルクス２（11―７　11―４）０池田

▽女子ダブルス
ギルクスウェトナール　２（15―６　15―２）０中山湯木

▽混合ダブルス
ウェトナールギレス　２（17―15　15―８　７―15）１梅野尾竹中

満員の観衆の中で、日英対抗最終戦は、池田×ギルクスの対戦で幕をあけた。

初戦の宇都宮大会では、イギリス選手の強行日程という悪条件もあり、日本が３対２で勝利を収めたが、第二戦の仙台大会では、イギリスがその実力を存分に発揮し、５対０で完勝、東京大会へ決戦が持ち込まれ、まさに白熱した好試合が期待された。しかし、残念ながら仙台大会同様、５対０という思わぬスコアでイギリスの勝利に終わったのである。

結局、日本がポイントをあげたのは、宇都宮における三勝だけで、通算三勝十二敗という無惨な結果となってしまった。

女子の場合、すでに周知のように、五月末からユーバー杯防衛戦が行なわれ、その前哨戦として、多くのバドミントン・フアンが注目していたわけである。しかし、シングルスで湯木が勝っただけで、ダブルスは、相沢・竹中組、中山・湯木組のいずれもが完敗してしまったのである。

今大会の前には、合宿も行なわれており、調子としてはよかったのではないかという疑問点、日本での試合であるための地の利などを考えると、この結果は解せないことであり、試合の内容にも多くの問題を残し、ユ杯防衛赤信号ということになってしまったのである。

さて試合のほうであるが、池田×ギルクス戦は、まず格が違うといった感はまぬがれない。技術的には、池田はヘアピンを含めてネット際での処理がまずく、ほとんどが奥へ押し込まれたり、ネットで苦しめられた。

そして最大の原因は、バックバウンダリーライン付近で打つ際に、両足がそろってしまうため、どうしてもホーム・ポジションへ戻るのが遅くなる。これでは、シングルスにおいて、大きなハンディを背負わねばならない。

それともう一つは、ロングサービスを、打った際、ギルクスのスマッシュ、カットでもう体勢を崩されたことである。もっとショートサービスを多用すべきでなかったか。強打の選手に対しては、まず強打を防ぐことが一番の得策であるから、もう一つ考えると、ロング・サービスとみせかけ、ショートサービスを出すなど、今後、再考としてもらいたい。まだまだ経験不足であるが、相手によってストロークの組合わせやプレーが変えられるよう望む。

しかし、昨年の全日本で二位となった結果は、順調に伸びている様子で、その一つのあらわれは、以前よりもスマッシュのミスが少なくなり、スピードもあった。攻撃は、オーバー・ヘッドストロークだけでなく、アンダー・ハンドストロークでも相手を奥に押し込むことも、シングルスにおいては、攻撃の一つであるということも考えに入れておいてほしい。

ギルクスに関しては、想像していた以上に安定していた。特に身長を利してのスマッシュの破壊力は、以前にも増して鋭くなってきている。イギリスチームのユ杯にかける意気ごみを象徴するようなプレーぶりであった。ギルクスを倒すには、先手、先手と攻撃していかなければとても見込みはない。要するに、

先にも述べたが、まず強打を防ぐべきで、あくまでもクロスのストロークを使うことで、ストレートは、必ずやえじきとなるのである。

さて、注目の中山カムバック第一戦の中山・湯木組×ギルクス・ウェトナール組のダブルスは、完全に長身ペアのイギリス組にほんろうされ、なすすべもなく、終ってしまった。まず中山が往年のプレーぶりにはほど遠く、まして、コンビネーションもちぐはぐで、(負け試合はいつもそうであるが)無惨であった。湯木も気持ちが先走り過ぎて、相手の動きを見るといった余裕がまったく見られず、スピードについていけない中山とのプレーをもう少し考えるべきではなかったかと思う。

いずれにせよ、ダブルスは相互信頼が崩れるようでは、まず話にならないし、まして経験十分のプレーヤー同志でもあり、また多くのファンのためにも、納得のゆく試合をしてほしかったのである。

湯木はシングルスにおいて、文字通り世界ナンバーワンであり、プレーぶりも絶対的な自信をもっているのだし、もう若手ではなく、ユ杯を背負う大黒柱であるから、常に自己に対してきびしく、また達観した気持ちでプレーしなければならないのである。ユ杯を控え、あえて苦言を呈したい。

ギルクス・ウェトナール組は即席ペアであるにもかかわらず、さすがに世界のトップ・ダブルス・プレーヤーである。

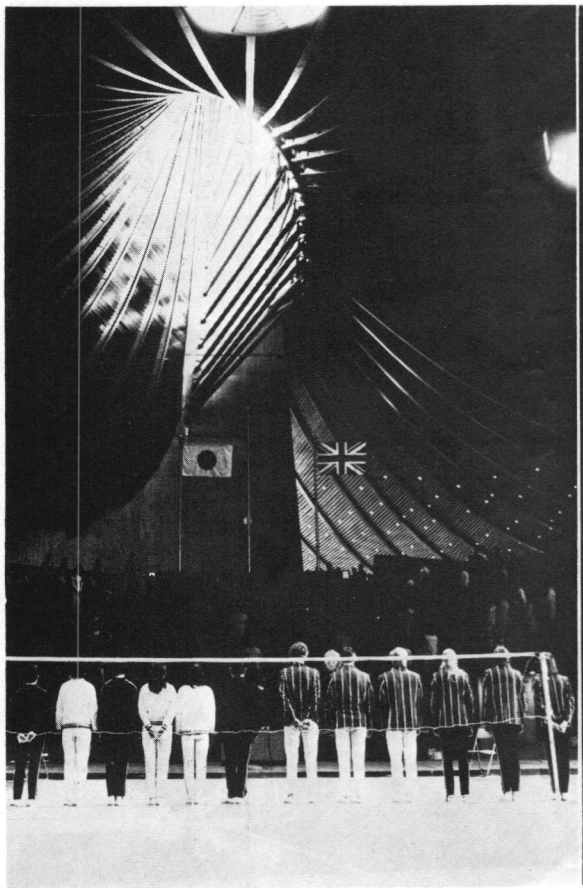
ギルクスの攻撃力に加えて、ウェトナールのレシーブのテクニックを日本選手は見習うべきである。余談であるが、ダブルスはシングルスに比べ安易に考えがちであるが、それは大きな誤りであり、スピードある相手と対戦すると、練習不足がはっきり結果となって表われる。

その意味でも練習不足であった中山は、シングルスに出場したほうが得策でなかったかと思うのである。

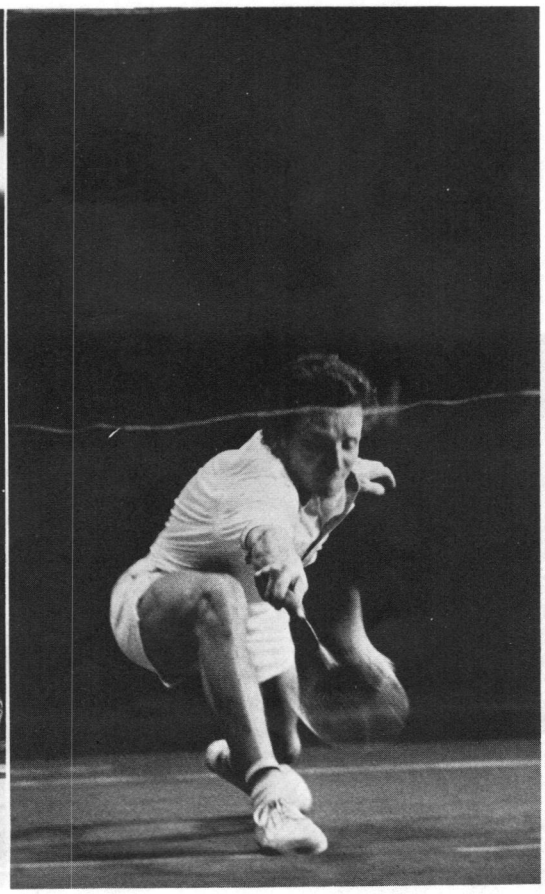
いずれにせよ、ユ杯を防衛するには、あまりにも険しい道であるが、監督、コーチ、選手が一つの気持になって防衛のために最大の努力をしてもらいたい。

そして選手は、よけいなことに心を奪われることなく、自己に打ち勝ち、自己のプレーを磨き、そして自己の目標に向かって突っ走るべきであると思う。

勝負は勝てば官軍、負ければ賊軍というように、今回の試合に関しては、甘んじて苦言を受け容れる姿勢がほしい。



開会式——国歌吹奏



けんめいのレシーブをみせるP．ウェトナール

さて、男子のほうであるが、池田・栂野尾組の三連敗は予想外であったし、私も同じナショナルチームの一員として情けないと思うと同時に、落胆の気持ちを禁じ得なかった。

池田・栂野尾組は、二年連続全日本チャンピオンであり、海外遠征で力をつけ、安定してきていることは確かであるが、チャンピオンとしての自覚と責任感が不足していたということができるだろう。

それは、練習不足ということにも表われているのであって、二ゲーム、三ゲーム目になると攻撃力が次第に落ちてきたのである。

もちろん、スティーブンス・トレゲット組も、昨年の全英選手権でベスト4に名を連ねているペアだから、その実力はトップクラスのものである。しかし、決して勝てない相手ではない。まして、英国チームが到着した翌日の宇都宮大会でさえ敗れているのは納得できない。

このあたりに、トーナメントには力を十分発揮する反面、一発勝負ではどうも成績がかんばしくないというこのペアの問題が浮き彫りにされているようでもある。

これは、精神的に弱さがあるわけで、特に一つの試合に対して集中力をもてないことにも通じるわけで、その点、改めて考えてほしいものである。

今年からトマス杯の予選が始まるわけだから、今まで以上にパワーをつけ、スマッシュを何発も叩き込むことが必要である。

イギリス組は、左右のペアの利点を生かし、鋭いレシーブではないがよく拾いまくり、そしてガッツが随所に見られ、真剣にプレーしていたことは気持ちがよかった。

さて、銭谷であるが、昨年の全日本チャンピオンという大きな自信をもったことはプレーぶりからもよくわかったが、彼も練習不足であり、一ゲーム先取されると、二ゲーム目はなすすべもなく終わってしまった。

ウェトナールに対しては、四つにガッチリ組んでやればよかったのだが、あまりにも単発で決めようとしすぎ、攻めが単調になってしまった。まだまだ若さが見られる。やはり、自分はチャンピオンなのだという自覚を強くもってもらいたい。

ウェトナールとは私も対戦したことがあったが、非常に真面目で、常に努力を惜しまぬ好青年であり、それがプレーの各所にみられた。

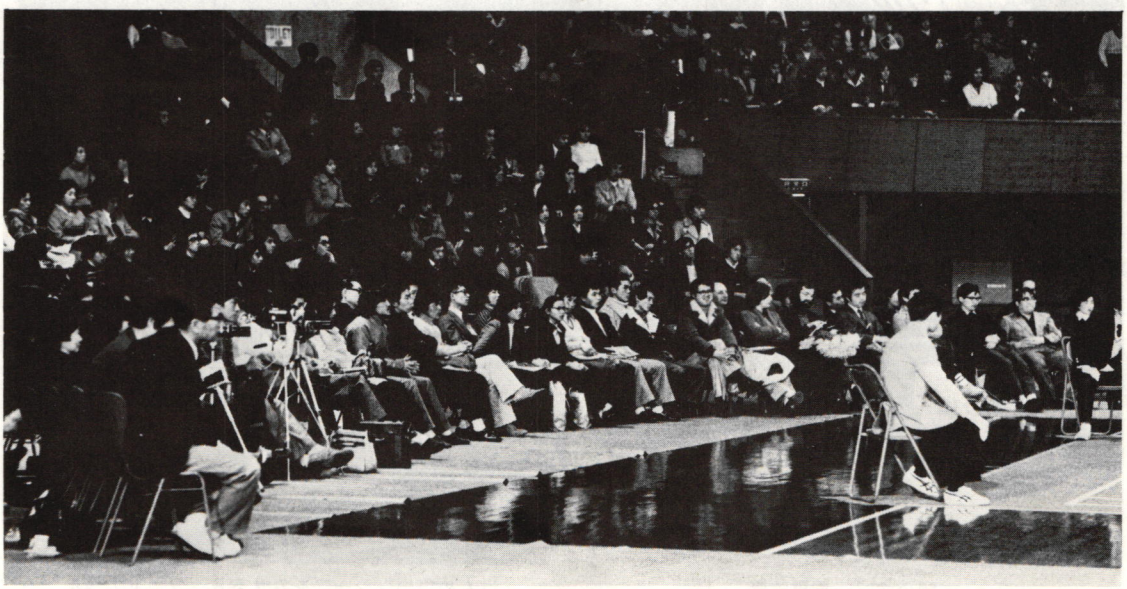
今回のイギリスチームは、全員が非常に一生懸命闘ったことは一服の清涼剤ともいえるものだった。

よく私は口にするのだが、試合に対して集中力をもってあたらねばならないという気持ちをもって試合にのぞんだ場合には、決して気の抜けたストロークはありえないし、また自分で決めるのだという確固たる気持ちになり、相手がミスしてくれないかなどということは考えないものである。

どうも男子の試合を見ているとそういった練習不足からくる甘い考えがあったのではないかと思う。

とにかく男子も実力的には、世界のベスト5に入っているのだから、もう少しピリッとした試合をすることが必要であり、それと日本人として、よい意味での根性を期待したいのである。

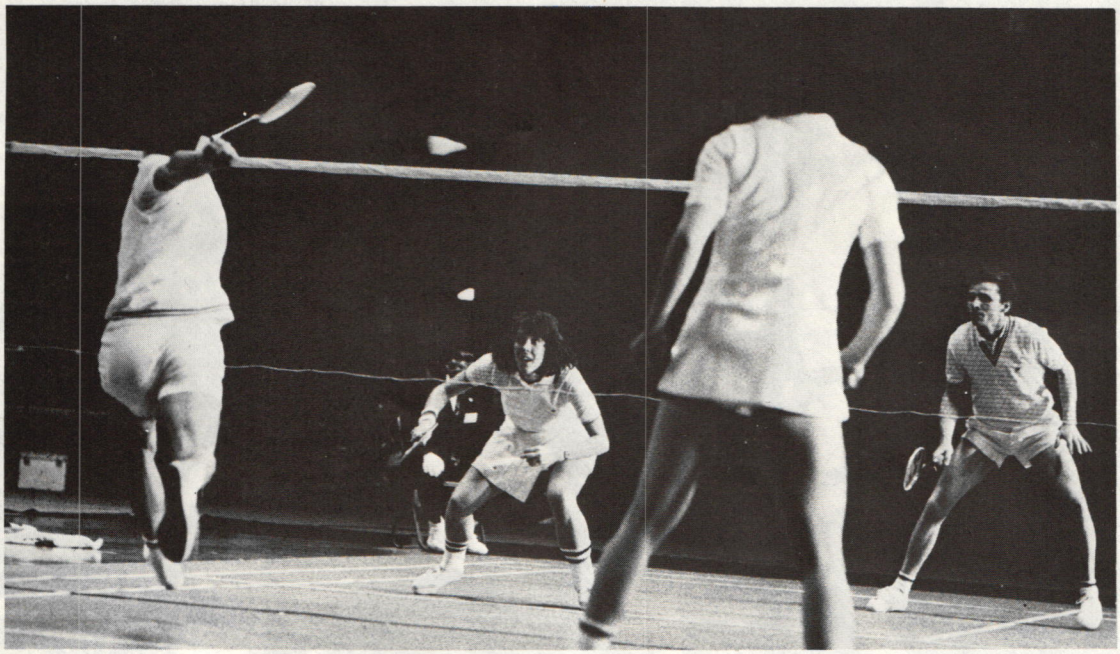
最後に、5対0という完敗で終わったことははなはだ残念であるが、これを良薬として、女子はユ杯防衛、男子はト杯インターゾーン出場へ向かって、協会、選手が一体となってばく進し、日本バドミントン界の発展のために責任をもって精進されんことを望む次第である。



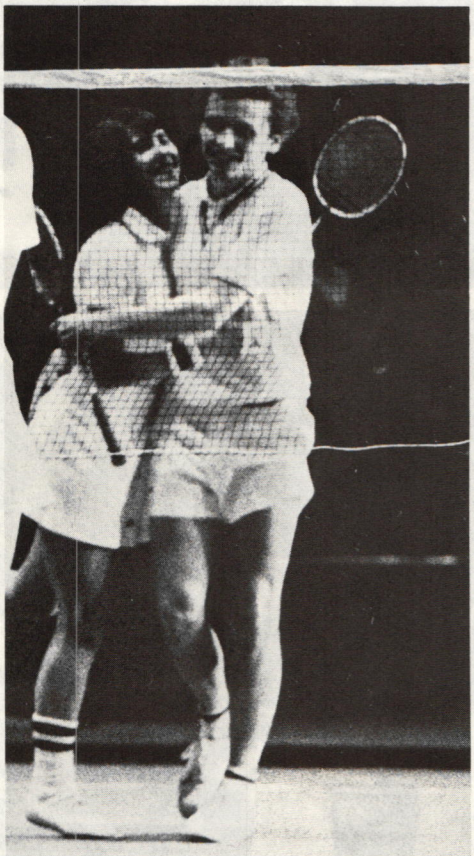
コートサイドまでファンがぎっしりつめかけ，アマチュアカメラマンもシャッターチャンスをねらう

混合ダブルス　*Mixed　Doubles*

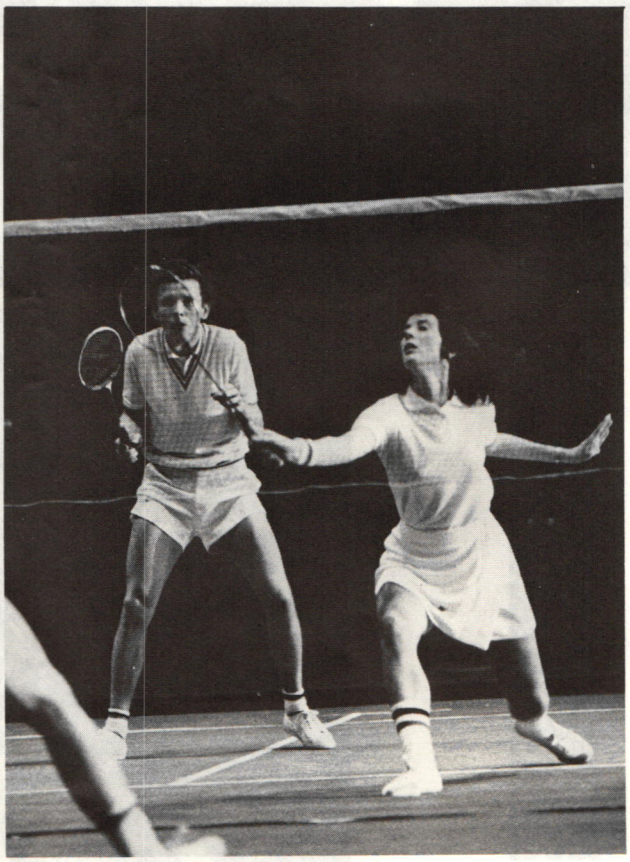
あと１本が取れず惜敗



栂野尾の強烈なネットへのラッシング

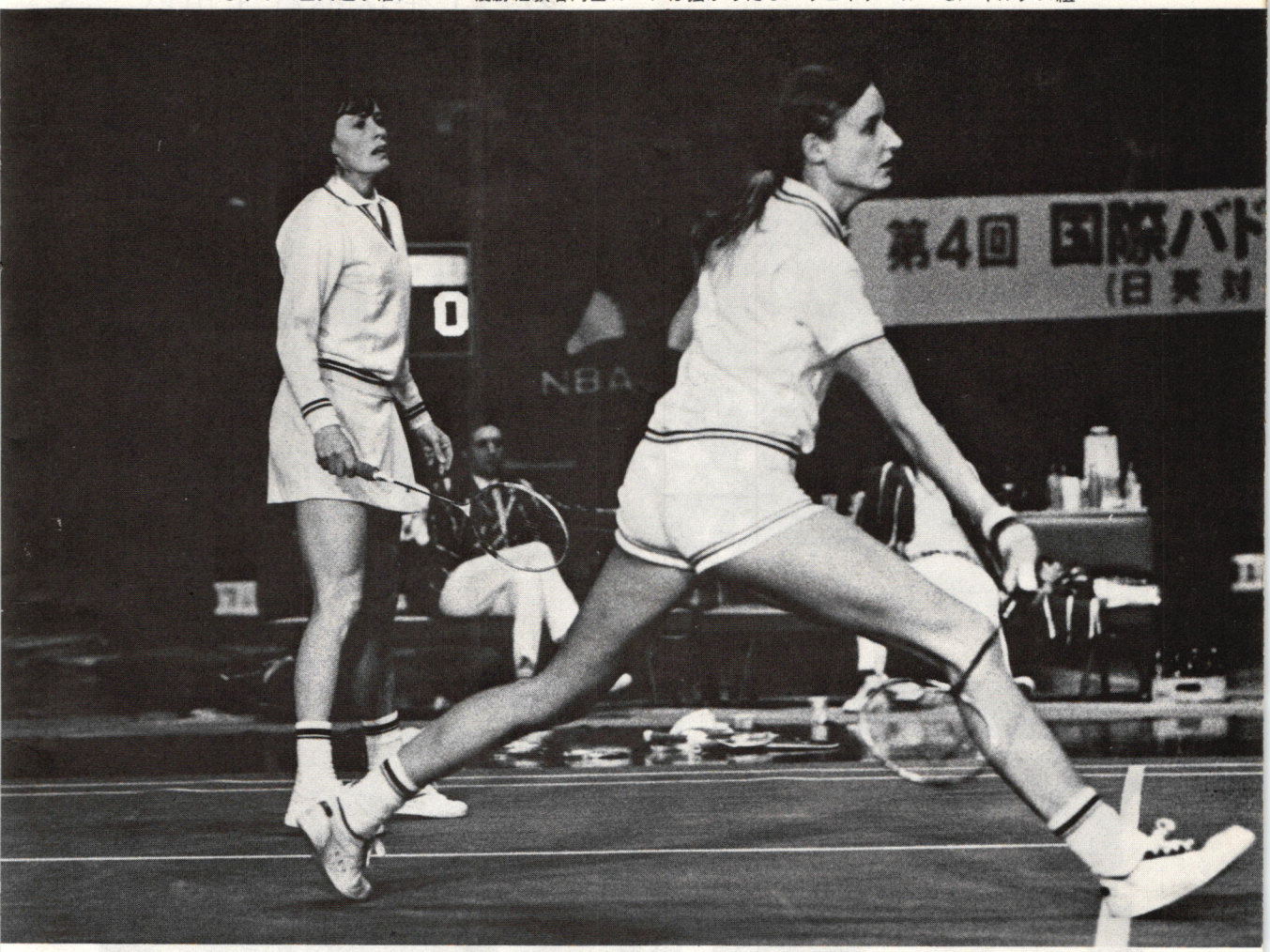


あと１本を守り通したイギリス・ペア



ギレスの前衛はさすがにイギリス
の伝統を感じさせるものがあった

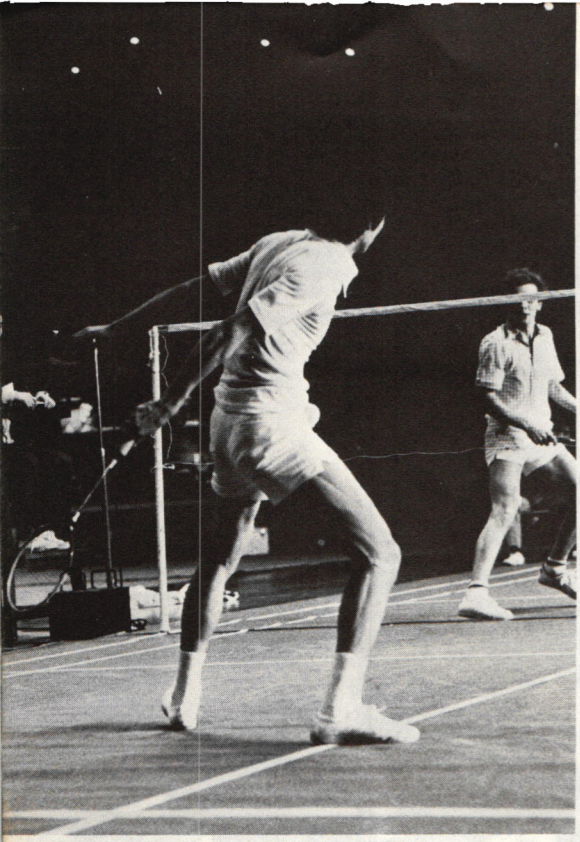
さすがに全英選手権ダブルス優勝経験者同士のペアは強かったS．ウェトナール・G．ギルクス組



余裕のイギリスチーム

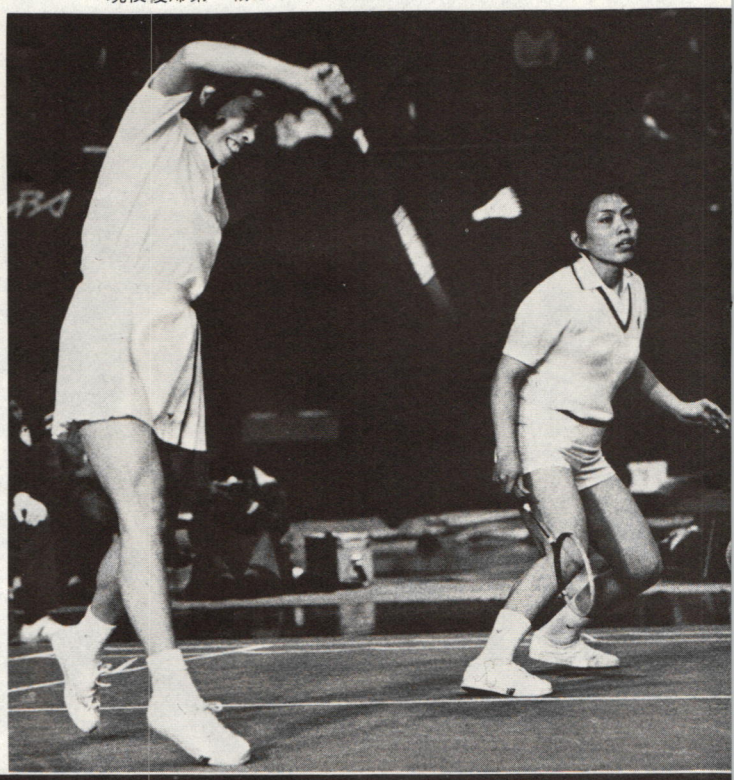


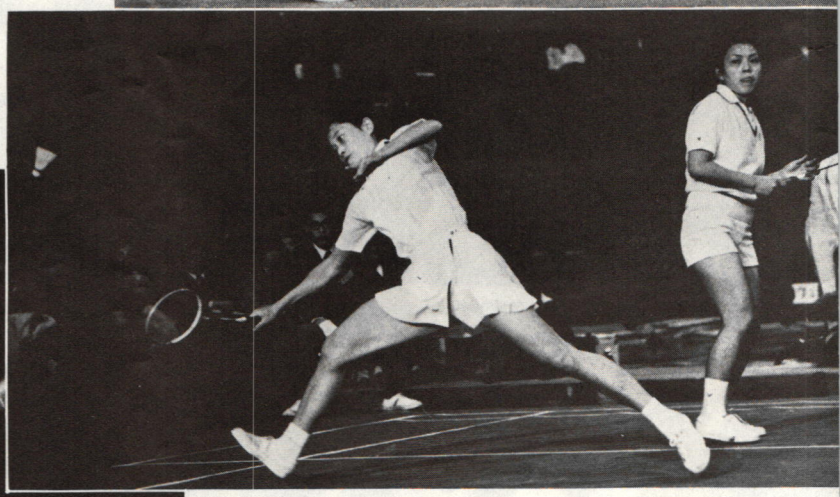
楽勝ムードにベンチものんびり

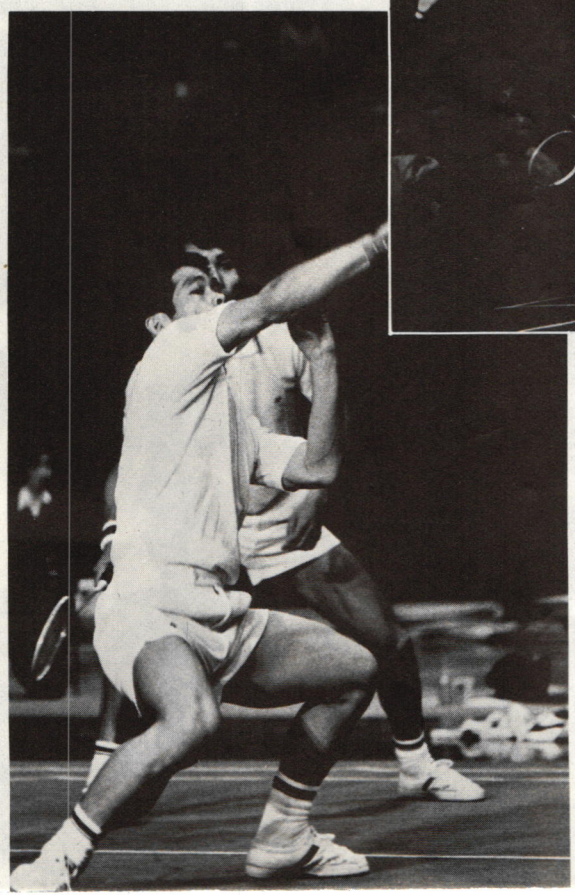


逆モーションをつかれる銭谷

現役復帰第一戦はけわしい試練だった中山（右は湯木）







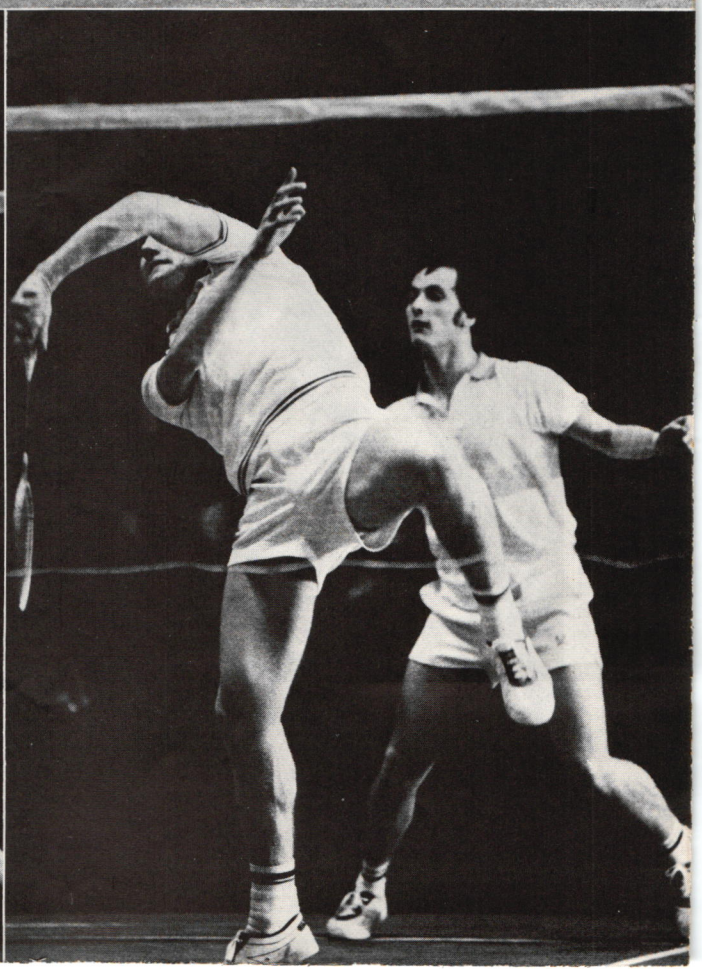
池田・栂野尾組は実に見ごたえのある試合をくりひろげたが……

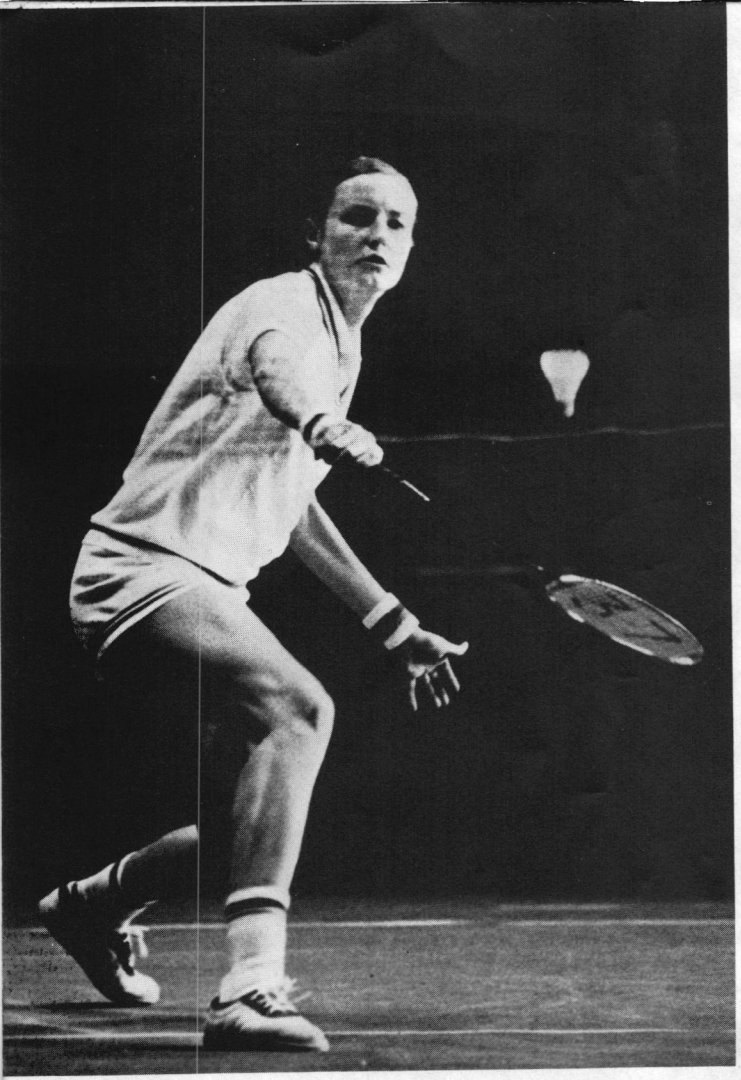
大苦戦の日本チーム

スティーブンス・M. トレゲット組三態



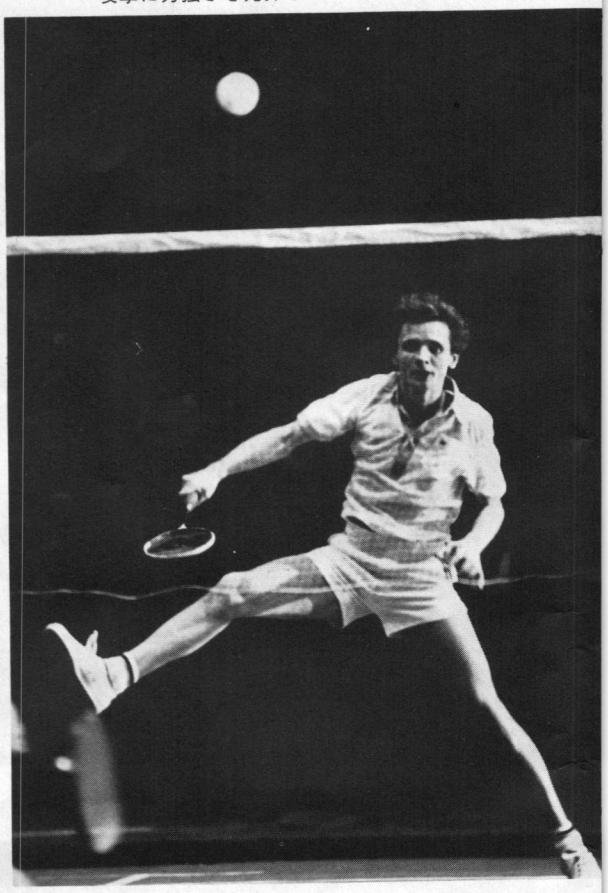






安定した実力をみせたG．ギルクス

攻撃に力強さを発揮したP．ウェトナール



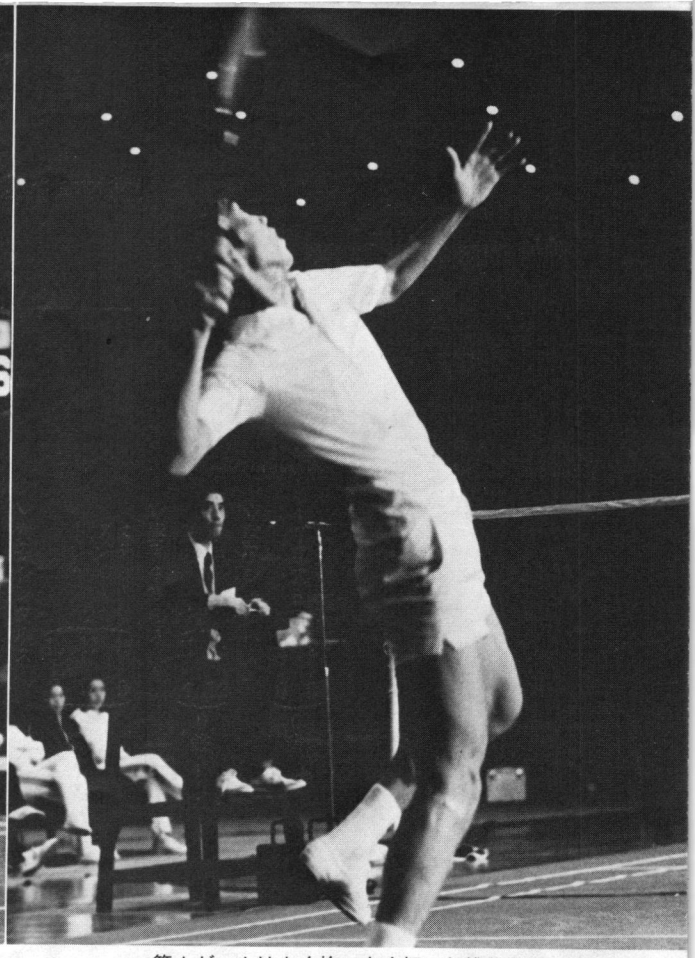


ファンからサインをせがまれるG・ギルクス



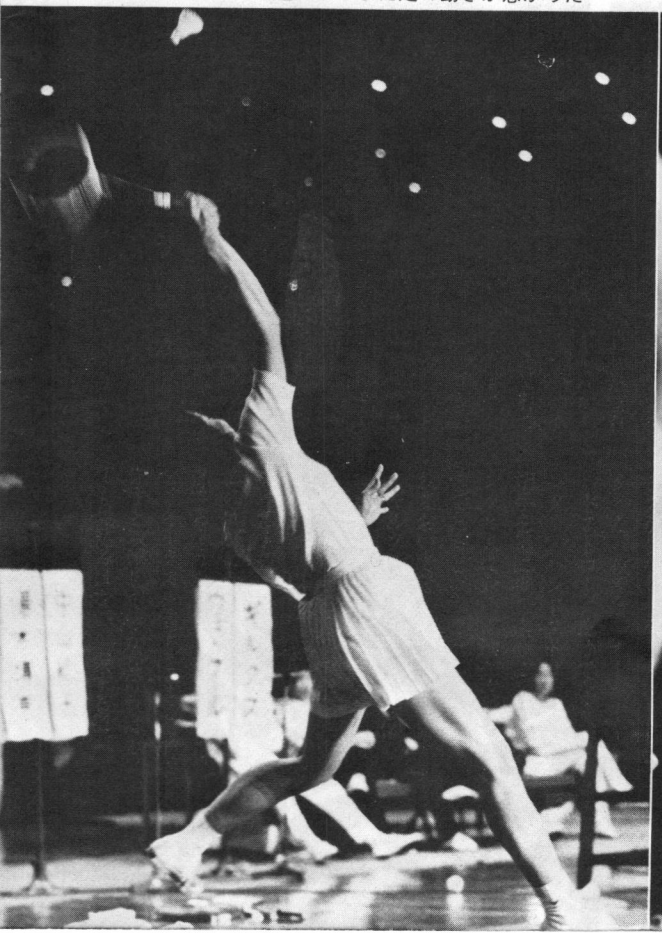
池田はギルクスのカベを破れず

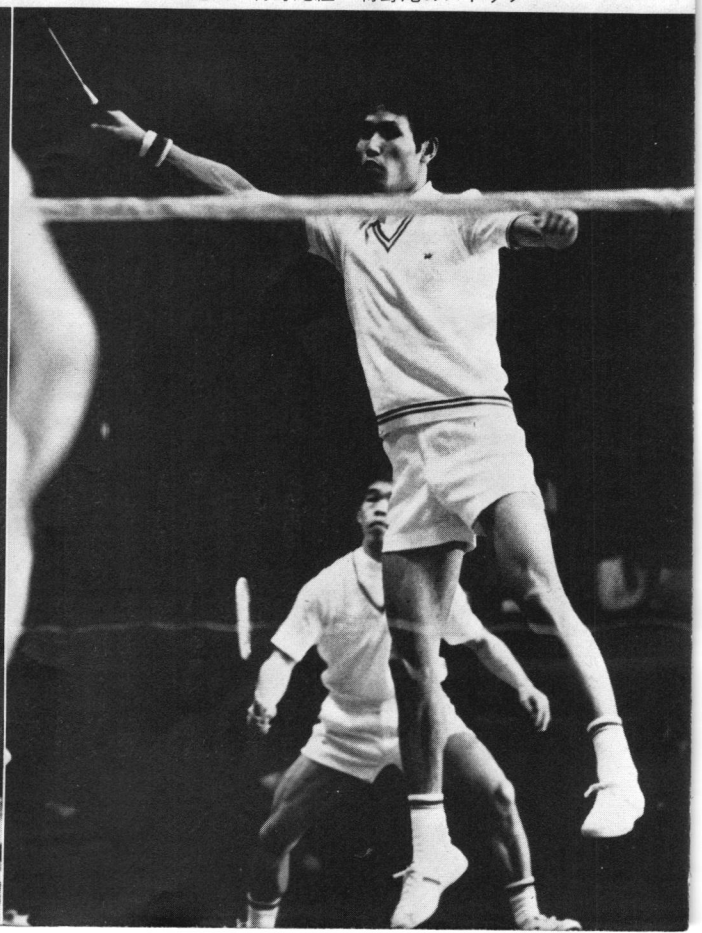
中山もよくシャトルを追ったがまだ足の動きが悪かった



第Ⅰゲームはよく拾いよく打った銭谷だが

池田・栂野尾組―栂野尾のストップ







本田弘敏日本協会会長の音頭で“カンパーイ”



料理に舌つづみを打つ左からギルクス，ギレス，ウェトナール

◆レセプションから◆



日英両チーム仲良く（それにしても英国チームは大きいですナ）



〝イエスタディ〟を聞かせる英国チーム

♥♥いいんだぁ～♥♥



話題を追って

女性とスポーツ

後藤　忠弘

十八歳の、国際レベルではおそらく世界で唯一人のスキー・ジャンパー、アニタ・ウォルドさん（ノルウェー）が、この正月来日、札幌五輪の会場だった大倉山シャンツェで、実に97・5㍍を飛び、女子の世界新記録をつくった。この時、彼女は助走路最上段からスタートした関係もあって、踏み切りの瞬間スピードは、時速96・8㌔。世界に誇る日本最高のジャンパー笠谷幸生（ニッカ）の91㍍をしのいだ。

昨年四月の米国・ボストン・マラソンで日本婦人のゴーマン・美智子夫人（三八）が女子の部に優勝した。記録は2時間47分11秒。彼女に負けた男性参加者は実に1389人もいた。

――最近、スポーツ界への女子の進出が目立っている。男子と同じ種目でせり合ってヒケをとらない現代の〝アマゾネス〟ばかりでなく、これまで男子専科であった競技分野にまで、女性が平気で手を染めるようになってきた。おりから、今年は国際婦人年。スポーツ界におけるウーマン・パワーの現状をレポートしてみた。

女性のスポーツ界への進出は世界的な傾向だが、欧米、とくにアメリカでは、いわゆる〝ウーマン・リブ〟の運動が、その一つの推進力となっている。その代表的な実例から、まず紹介していこう。

リトル・リーグ（米国各地に何千チームもかかえる少年野球の組織）の参加資格が昨年末に改正され、少年にまじって、少女も一緒にプレーできることになった。このリーグ規約は国会で可決され、大統領が署名してはじめて有効となるという、面倒な手続きを経て、陽の目を見たのだが、米国民の世論をしてそこまで動かした発端は「自分の娘がチームに入れてもらえないのはけしからん」と、訴訟を起こしたことだった。

日本女性も、ある面では世界の最先端を行くほど開けたし、中ピ連などという、おっかないウーマン・リブ団体まであるらしいが、たかが野球に入れてくれない云々で、裁判沙汰まで起こすほど、筋金入りではないだろう。

同様、目下、注目を集めているものに、ボクシング訴訟がある。これはニューヨークに住むジャクリーヌ・ギャレットさん（三六）が原告。彼女はアマチュアのボクサーで、すでに〝ジャッキー・トワナンダ〟というリング・ネームまで作り「マジソンスクエア・ガーデンのリングを踏む」という年来の夢を果すべく、プロのライセンスを申請した。

OKになれば、もちろん有史以来の世界の女性プロボクサー第1号となるところだった。しかし、ニューヨーク州体協の規定にひっかかるとして、却下されてしまった。

そこで州を相手どり、州人権委員会に「性による差別であり憲法違反」と持ち込んだがラチがあかなかったので、今度は州裁判所で戦うことにした。（本号が出る時には、結末がついているかもしれない）

ところで、こういう恐ろしい（？）女性がふえてはかなわない、というわけか、AAU（米国体育協会）のボクシング委員会は一月の初め、総会を開いてアマボクシングへの女性の進出を禁止する旨、満場一致で決めてしまった。

理由がなんと「胸をしょっちゅう殴られていると乳ガンになりやすいので」ボクシング部門医事主任の説明だが、果して、この説明に納得する人がどれだけいるだろうか。

伝統を重んずることで有名なのは英国だが、ここでも〝静かな性革命〟は進行している。ヘンレー・レガッタといえば百三十五年の歴史を持ち、いわゆるジェントルマンシップと、世界最初のアマ規制の〝生みの親〟としても知られたボート・レース。毎年夏、ロンドンはテムズ河でくりひろげられる国民的な催しでもある。

このレースに、今年から女性の参加が認められたのだ。といっても、クルーは未だダメで、当分はコックスだけ。すでに米国ボート協会では一昨年、ルールを改正して、女性コックスの出場が認められている。

この例は、男子の中に女子がまじってもよい、ということだが、同じ話は、まだほかにもある。米国はきわめて進歩的な国だが、世界中のあらゆる人種が集っているだけに、風俗習慣や規則も、州、地域によって千差万別。たとえば「バスケットは女子にはきつすぎる」として、米国式の特別ルールでやっているところが、いまだにある。

その半面、先日、外電が伝え

たところでは、男子チームに唯一人入ってプレーしている、勇敢なお嬢さんもいる。ニューヨーク・プラット学院のシンディ・メザーブさん(二九)で、全米大学体育協会の歴史上このような例は初めてだ、とのこと。

さらに、フランスでは男子サッカー・チームに女子選手が入って話題となっている(報知新聞＝パリ・レキップ紙から)。カレーのサンメールというチームの話で、力量からいっても、まだレギュラーは無理だが、それにしても大したもの。

鋭い反射神経と長時間の極限に近い緊張が必要とされるのが自動車レーサー。従来、女性はこのようなスポーツに不適とされてきたが、レラ・ロンバルディというイタリア女性は、昨秋米国カリフォルニア州のリバーサイド・グランプリに出走して24台中の9位。つまり、彼女よりニブイ男性ドライバーが15人いたことになる。

ことのついでに「男だけかと思ったら、あれ、あれ」の例を並べて行こう。

○米国では競馬の騎手会が女性にも門戸を開放している(日本でも東北の草競馬に、かあちゃん騎手がいるという話)。

○同じく米国では大学でフットボール(アメリカン・フットボール)の女子の試合が盛ん。

○同じく女子プロレスも人気があり、レフェリーにも女性がいる(日本でもマッハ文朱)。

○タイでは例のキック・ボクシングが盛んに行われている。

○スペインには昨秋、史上初めて女性闘牛士が登場した。アリシア・トマス嬢といい、マドリードの若者たちのアイドル。

さて、世界で最も広く行われている競技はサッカー。従って女性の進出もまた、盛んなのが当然だ。欧州では約半数の国のチームが国際競技会をやっているし、プロ・チーム(西独)まであるほど。そこで「今後、十年以内に女子サッカーのワールド・カップを開くことができるだろう」(英国女子サッカー協会デニス・フォローズ会長)の観測が早くも生れている。

日本で女子サッカーが〝公式〟舞台に登場したのは一昨年。こと し二月には、室内の、いわゆるミニ・サッカーだが、関東大会と銘打ったトーナメントが行われ、前途を明るくした。

サッカーより、もっと激しい動きが必要とされるのが、アイスホッケー。東京・伊勢丹と国土計画が昨年、女子同士の定期戦を行った。もちろん、日本では史上初めての話だ。日大や若者のアイビー・ルックなどで知られるヴァンなどでもチームを作る話があり、日本体育協会筋では「まずスケートを習わせてから」などという、遠大な計画が進んでいる。

男女を通じて最も激しい運動の一つにホッケーがあるが、世界の女性は昔からこれをプレーしていたのだから、最近、サッカーやラグビーなどをやり始めたからといって、驚くのはどうかしているかもしれない。

スポーツ界のウーマン・リブの闘将キング夫人(リッグスおじさんとテニス試合をやって勝った)は「女は一生、女であるから」とミス、ミセスの区別をつけて女性を呼ぶことをやめ、ミズ(Ms.)と呼ぶように提唱している。



ウーマンリブの闘将　ビリー・ジーン・キング夫人

このミズをタイトルにした米国のウーマン・リブ雑誌は昨秋「男女の筋力差は縮まりつつある」という特集論文をかかげ、女性の体力、運動能力が、いかに向上したかを説明した。

たしかに、かつては陸上で八百㍍を走ることさえ「きつすぎる」として禁止されたが、最近では、陸の上ならフル・マラソ

ン（42㌔余）水中なら千五百㍍も平気でこなすのだから、女性の体力が向上していることは間違いない。

水泳といえば、自由形の四百㍍と千五百㍍の女子世界記録は日本の男子記録をしのぐという大変なものだ。しかし、水泳のような競技は運動中の酸素摂取能力の大小が、記録を左右する最も大きい要素なので、女性が男性よりすぐれている場合も珍らしくはない。

もっとも、別表でわかるように、一般的には女性の運動能力や各種機能は、男性の8、9割にすぎない。その代わり、皮下脂肪の量だけは、男性をはるかに引き離している。実は思春期になって脂肪の量がふえるため女性は筋量、筋力がふえないのだが、半面、脂肪の多いことは女性を持久性のある存在としている。

昨年、日本の女性登山隊がマナスル登頂に成功、女性として世界で初めて八千㍍級を征服した（今年もエベレスト、ダウラギリに日本の女性隊が行く）。登山はそれほどのパワーを要しないし、逆に耐久力が大切とあって、女性が成功したのは驚くほどのことではない、という、

また、生理時のスポーツ活動は個人差が大きく、止めた方が無難な人がいる半面、影響がないどころか、むしろ期間中にかえって好成績をあげたとか、オリンピックでメダルをとった実例も多い。

このように、女だてらに、とか、こんなことは害がある、とかいわれていたことも、研究が進めば〝迷信〟〝認識不足〟にすぎないことが、だんだんとわかってきた。従って、女性だから出来ない種目というようなものはほとんどない。大ていのスポーツは女性同士がやるのなら無理なく楽しめるはずだ。

さきほど引用したウーマン・リブの雑誌「ミズ」はニューヨーク・クィーンズ・カレッジのF・カッチ博士の言葉を引用して次のように述べている。

「女性はこれまで甘やかされ赤ん坊扱いされてきた。極限まで厳しく追い込まれたり、不断のトレーニングを課されたことがなかった」だから自分の持つ本当の力に気付かず、また本当の力を引き出す機会もなかったわけだが「あと五年もたたぬうちに、世の中はがらり変わる」

（東京新聞運動部、日本協会理事）

体格・体力その他各種機能の男女比

（男子を100とする）

体格	身長		93.2
	体重		91.2
	胸囲		96.9
体力	筋力	握力	66.9
		背筋力	61.4
	瞬発力	垂直とび	70.8
	全身持久力	踏み台昇降	91.1
	敏しょう性	反復横跳び	88.2
	柔軟性	上体そらし	101.0
		立位体前屈	106.5
運動能力	50 m 走		84.3
	走り幅跳び		73.0
	ハンドボール投げ		61.4
循環機能	心臓容量		80.5
	心重量		80.4
	一回拍出量		85.5
	毎分拍出量		89.4
呼吸機能	肺活量		67.4
	最大酸素摂取量		66.7
神経機能	単純反応時間		100.0
	打叩テスト		103.5
	全身反応時間		94.8
皮脂厚	背		231.2
	腹		245.3
	上腕		289.5
	大腿		321.2

（注） この表は「暮しと健康」2月号；東京学芸大助教授 波多野義郎〝女性とスポーツ〟から借用したものです。



ウーマンリブの闘将 ビリー・ジーン・キング夫人

カアルトン ニュートーナメント は水鳥？

ナイロンを感じさせないナイロン。

新開発された、カアルトン〝ニュートーナメント〟シャトルは、ナイロンと云うよりも英国製高級水鳥シャトルに最も類似した性能を備えた、新しいシャトルです。



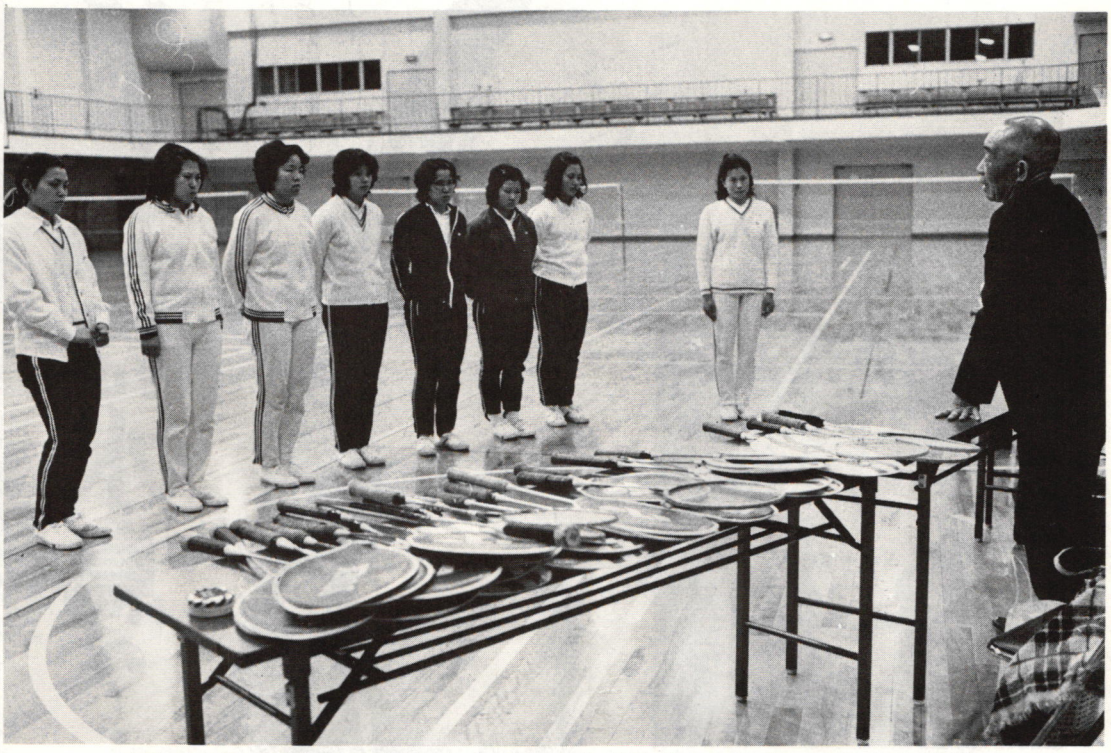
ニュートーナメントの特徴

●打球音が変った●ラケットから離れる感じが変った●ネットでのターンノーバ（回転）が変った●スピン●シャトルに対する視覚度（よく見える）がよくなった●飛翔のときの一貫した安定性が増加された。

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5-6-4 TEL. 833-3661（代）

●GO！GO！ ユーバー杯V4作戦



本田会長の励しに耳を傾ける選手たち（右から，中山，徳田，秋本，西尾，相沢，池田，塩崎，湯木）

ユ杯を死守せよ！

本田会長が合宿激励

ユーバー杯大会四連勝をめざすわがナショナル・チームは、現在イギリス、インドネシアを〝仮想敵国〟として猛烈合宿中だが、そのユ杯チームを、本田弘敏会長が異例の訪問で激励した。

一月下旬、川崎市のいすゞ体育館で行われた第六次合宿。会長の合宿激励は初めてのことだ。

「一月の日英対抗は、イギリスに敗北したが、望みがなくなったわけではない、これから技術、走力を身につけてがんばれば、必ず四連勝は達成出来る」

と、きびしい口調で約十分間の激励演説。

竹中選手がカゼで休み、ちょっとさびしい合宿だったが、この会長の一言でチームはピーンと緊張、小島、栂野尾、銭谷、池田ら男子選手の陣中見舞（実は相手になってしごいた）もあって、大いに成果をあげた。

（写真は読売新聞社提供）

トマス杯組合せ決まる

日本はアジア東側地区から出場

――まず香港と対戦――

男子の世界一強い国を決めるトマス杯大会は、いよいよ本年から来年にかけて行なわれるが、このほどその組合せが決定した。

日本はアジア地区東側から出場し、まず香港と対戦、続いて韓国と対戦したのち、西側代表国と、アジア地区の代表を決することになるわけだが、順当にいけば、西側からはマレーシアが勝ち進んでくるだろう。

もちろん、マレーシアはなかなかの強敵で、前回大会では、やはりアジア地区決勝で、惜しくも敗れている。しかし、チャンスは十分あり、選手の精進と関係者の努力、環境づくりによって、なんとかインターゾーン出場を果たしたいものである。

大会日程の大まかなところは次のとおりである。

●アジア地区●
一回戦は9月30日までに、2回戦は11月30日までに、そして準決勝は来年1月31日までに、決勝は3月31日まで行なわれる。

●オーストラレイシア地区●
一回戦および決勝は、10月31日までに行なわれる。

●ヨーロッパ地区●
一、二回戦は12月31日までに、準決勝は来年2月15日までに決勝は3月31日までに行なわれる。

●インターゾーン●
各地区の優勝国によって世界一の座をかけ、争われるインターゾーンは、来年5月25日から6月5日の間に、バンコック(タイ)にて開催される。

●アジア地区

東側
- 日本
- 香港
- 韓国

西側
- ビルマ
- パキスタン
- インド
- スリランカ
- シンガポール
- マレーシア

→ インターゾーンへ出場

●オーストラレイシア地区
- イラン
- オーストラリア
- 台湾
- ニュージーランド

→ インターゾーンへの出場

●アメリカ地区

6月15日申込み締切り

●ヨーロッパ地区
- スコットランド
- イングランド
- オランダ
- デンマーク
- フィンランド
- 西ドイツ
- スウェーデン

→ インターゾーンへ出場

●中日ドラゴンズで性格テスト●

バドミントンでも採用したら

先日の新聞に、プロ野球中日ドラゴンスが、毎年、新入団の選手に性格テストを実施している、という話が載っていた。

人を見て法を説け、というくらいだから、一つのことを注意するのでも、A選手にとって効き目のあるいい方が、B選手の場合には全く通じない、ということもあり得る。また、相撲の世界に〝けいこ場横綱〟という言葉があるように、大物だといわれながら、肝心の時に全く打てないバッターなども、決して珍らしくない。そこで、最初に、一人一人の性格をよくつかんでおこうというわけ。ドラゴンスもなかなか考えたものだ。

いや、ドラゴンスばかりでない。かつて卓球や近代五種競技などで、選手の性格テストを行い、そのデータを活用して選手管理に成果をあげたことがある。たとえば、卓球では、当然、世界代表に加えられておかしくない選手が、選ばれなかったことがあるが、これはテストのデータが、その選手の性格を〝ムラッ気がある〟と報告していたからだった。

バドミントンでも、性格テストは大いに参考になるはず。ひとつ、ユ杯やト杯の合宿からためしてみたらいかが。

◆かけ声ばかりの一億総スポーツ◆

全然足りない公共の施設

〝一億総スポーツ〟が掛け声ばかりでなかなか進まない理由の一つは、施設の不足。日本体育施設協会（本田弘敏会長＝日本バドミントン協会会長）が昨年末、調査発表したところによると、全国で不足している公立のスポーツ施設は約二万六千にも上ることが明らかとなった。

不足の〝基準〟は四十七年末に保健体育審議会が文部大臣に答申した「体育のスポーツの普及振興に関する基本方策」で示したもの。たとえば人口十万人の日常生活圏域では①一万平方㍍の運動広場六ヵ所②体育館五カ所③プール六ヵ所が必要だ、というようなのが具体的な基準で、これに合わせて、不足数をはじき出した。

日本全国のスポーツ・体育施設は、ありとあらゆるものをひっくるめて約15万ヵ所あるが、そのほとんどは学校や企業の所有物か、高いお金をとる営利事業のもの。国や県市町村所有の公立施設は、現在たった7％の1万2千4百しかない。

いわゆる社会体育というのは公立の施設を基地にしたクラブ活動のことだから、これの不足はすなわち、社会体育の不振につながる。

各種施設のうち、運動広場、体育館、プールの三つについて各県別の不足数を別表にしてお目にかけよう。

不足している公立スポーツ施設数

府県	運動広場	体育館	プール	府県	運動広場	体育館	プール
北海道	270	216	176	滋賀	50	44	38
青森	88	79	77	都京	137	121	127
岩手	77	61	79	阪大	388	386	384
宮城	80	90	102	庫兵	250	230	258
秋田	5	52	57	良奈	12	46	50
山形	60	55	48	山歌和	10	47	39
福島	97	81	73	取鳥	26	21	28
茨城	107	232	116	根島	40	30	32
栃木	105	95	40	山岡	83	96	83
群馬	77	88	80	島広	121	132	103
埼玉	255	220	234	口山	72	76	69
千葉	218	201	196	島徳	44	33	30
東京	645	534	594	川香	43	49	48
神奈川	319	292	264	媛愛	77	77	77
新潟	119	111	74	知高	40	31	44
富山	57	53	7	岡福	238	220	204
石川	65	43	63	賀佐	53	44	46
福井	39	29	17	崎長	59	81	77
山梨	24	46	46	本熊	64	82	66
長野	101	100	109	谷大	48	65	52
岐阜	89	84	84	崎宮	33	21	41
静岡	129	161	134	島鹿	71	89	89
愛知	318	267	252	児沖	65	59	63
三重	87	78	82	縄			

★いちばん稼いだプロはだれ★

スーパー・スターはスーパー・マネー

昨年度、世界で一番、お金をかせいだスポーツマンは、プロボクシングの王者モハメド・アリ（旧カシアス・クレイ）。新春早々、外電が伝えてきたもので、正確にいえば「米国プロ・スポーツマンの収入ベスト10」だが、この番付のトップが、そのまま「世界ベスト1」となるのも間違いなしだ。

さて、そのアリの収入はなんと585万㌦（17億5千5百万円）。以下、10位が40万㌦（1億2千万円）。そして、ここに

並んでいる10人は、すべてボクシング、バスケット、競馬の選手ばかり。

ふだんは華々しく宣伝されるプロ野球（大リーグ）ゴルフ、テニス、フットボールなどはランク外。なるほど 調べてみると、大リーグでは本塁打新記録のアーロンが6千万円（推定、野球だけの年俸。以下同じ）ゴルフのNO1・ジョニー・ミラーが約1億2千万円、テニスのジミー・コナーズが約8千5百万円。

なお、一説によると、米国の野球、バスケット、アメリカンフットボール、アイスホッケー4つのプロ競技で、年収10万ドル（3千万円）以上の高額所得者は232人に達するとのこと。スーパー・スターはスーパー・マネーをかき集める……。

♥これが日本のスポーツの実情♥

半分の人は4キロ以上歩かない

日本人の約半数は、4キロ以上続けて歩くことを、一年に一度も経験しない——一億総スポーツ化、などとスローガンは立派だが、実態はざっとこの程度。一般庶民は驚くほどスポーツと縁遠い、ということが日本体育協会の調査でわかった。

国民のスポーツと健康に対する意識・行動を、東京教育大・浅田隆夫教授の教室に依頼、調べたもの。同教室では、15歳—64歳の男女約四千人を対象に面接し、三年がかりでまとめた。

運動（からだを動かすこと、スポーツ）が生涯を通じて必要か、という最も基本的な質問に対しては、9割以上の人たちが「必要」と答えたが、では、なんのために必要かの問いには、その中の9割が「病気に対する抵抗力をつけるため」としている。また、逆の立場から約3割の人々は「運動不足が健康を損なう恐れあり」と答えている。

このように、健康に対する意識は決して低くない。しかし、実行の点になると、はなはだ心もとない。どう心もとないか、いわば運動の第一歩ともいうべき「歩く・走る・泳ぐ」の3点で見てみると、

①年間一度でも、4キロ以上続けて歩いた経験——男子の約4割、女子の約5割が「なし」

②年間一度でも、1キロ以上続けて走った経験——男子の約7割、女子の8割5分が「なし」

③年間一度でも、25メートル以上続けて泳いだ経験——男子の約5割5分、女子8割5分が「なし」

それでは、日本人はそれほど忙しいのか、というと、もちろん、そうではない。NHKの昭和48年度「国民生活時間調査」は、いわゆる余暇時間の実態を明らかにしたが、それによると平日で成人男子は4時間半、女子4時間、休日には男子7時間半、女子5時間もヒマがある。だが、その時間の大部分を、大部分の人はゴロ寝やテレビですごし、スポーツなどの運動に割く人々は、たったの7%にすぎない。

それでいて、国民の62%はスポーツが好きで、そのうちの38%、人口にして二千四百万人は「自分でスポーツをやりたい」といっている（総理府調査）そうだ。一体、どうなってるの？

手近かにスポーツ施設がない・指導者がいない等、環境整備ができていないから「わかっちゃいるけど、やってない」ことになる、との説がある。

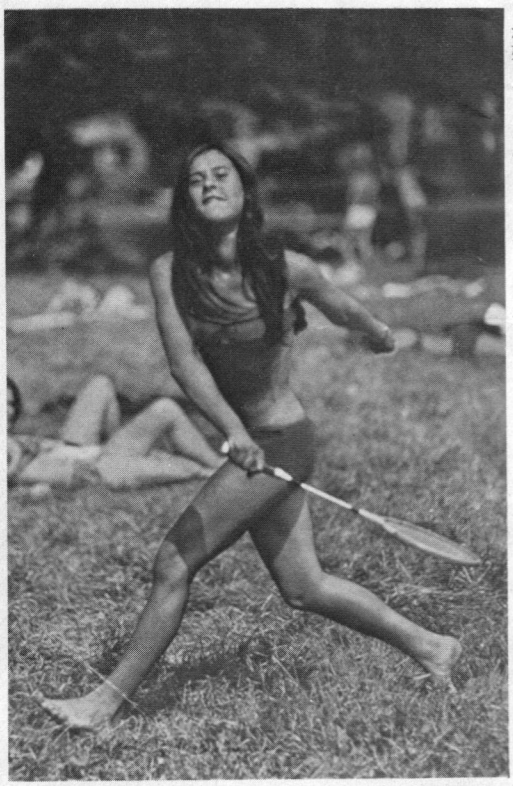
間違った見方ではないが、もっと基本的には、日本人の生活がすべて都市化、機械化し、あまりに便利になりすぎ、従ってみんなが〝怠けもの〟になったから、ではないか。

一流スポーツマンだって、今日では合宿の宿舎から体育館までタクシーで乗りつけ、体育館に着いたら、それから先はトレーニングだから走る、というようなことを日常的にやっていて、それが矛盾だとは思わぬご時世ですからね。

その証拠を、締めくくりにご紹介しよう。週刊誌のスミに載っていたもので、ネタ元は富国生命の「歩くことの意識とその実態調査」。

——ふつう何分くらいの距離までなら歩いていく気になるだろうか。

▽5分＝男性4%、女性2%
▽10分＝男性28%、女性8%
▽15分＝男性28%、女性26%
▽20分＝男性24%、女性46%
▽25分＝男性1%、女性1%
▽30分＝男性6%、女性10%
▽35分＝男性4%、女性6%



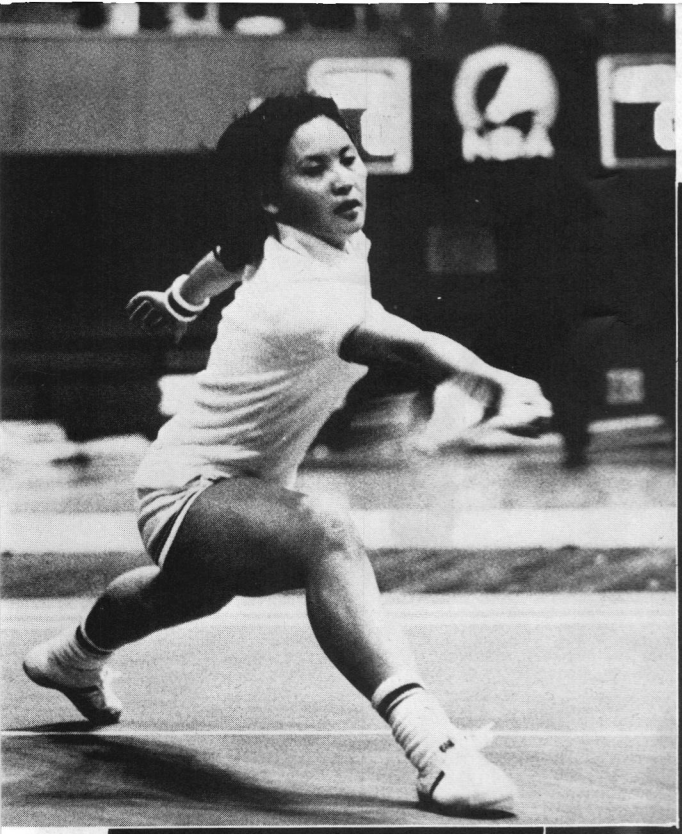
これは勇しい姿ですね（東ドイツのスポーツ誌から・バドミントンは東ドイツにおけるもっとも大衆的なレクリエーションスポーツである，との説明あり）

栄冠は今年も湯木の頭上に輝く



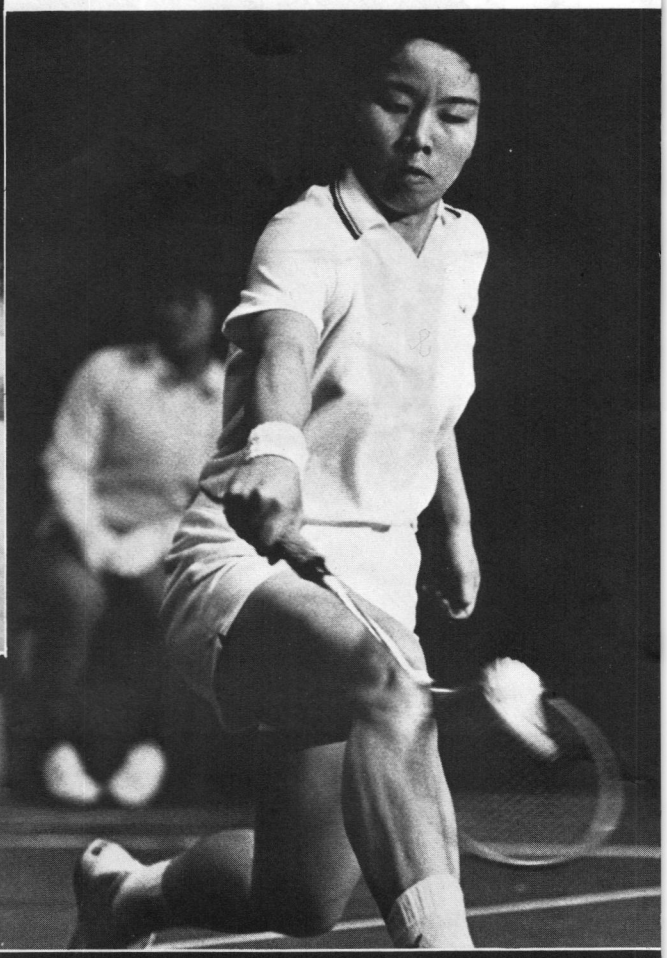
第6回全日本女子チャンピオンズ・トーナメント（2月2日・東京）

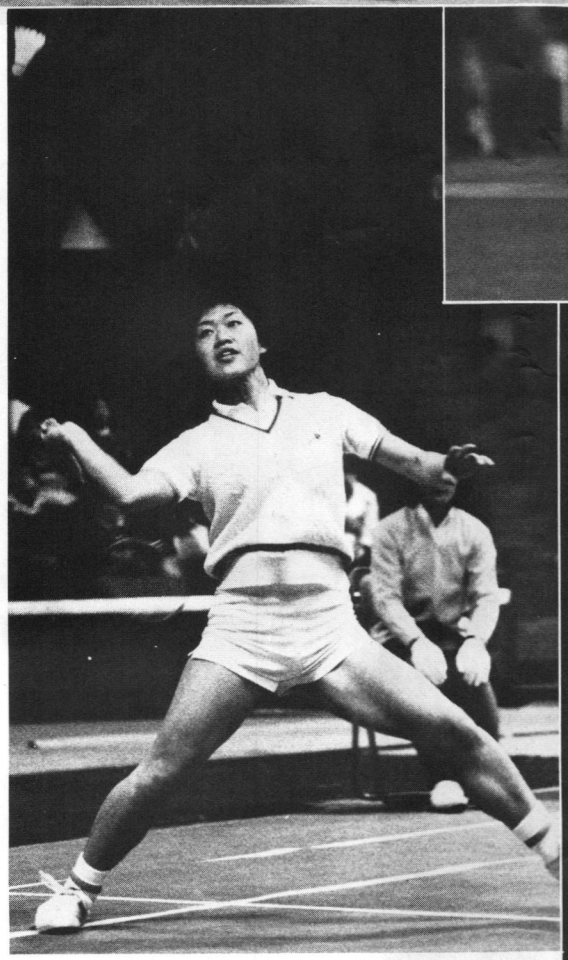
女王の座をかけて闘う



◀徳田敦子

▼池田美加

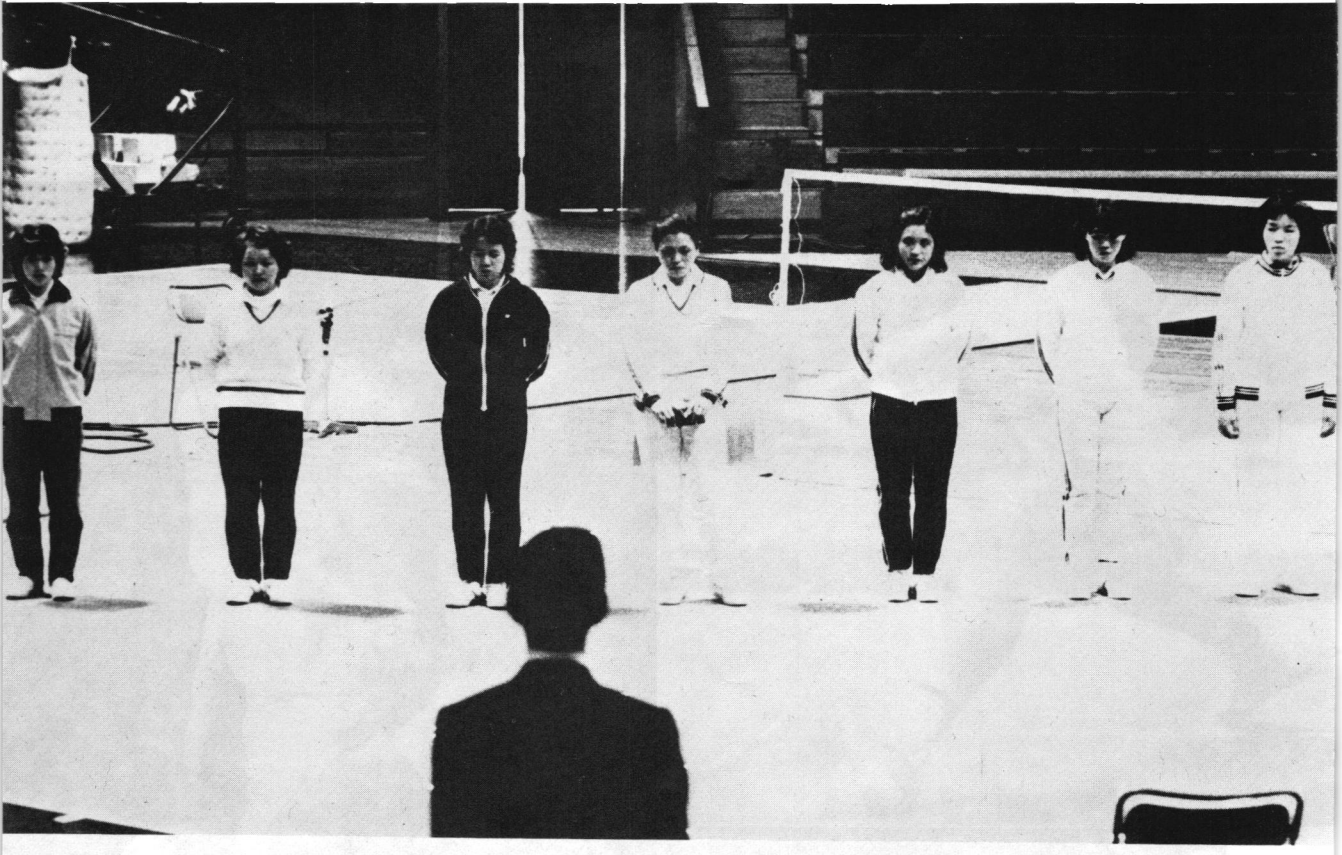


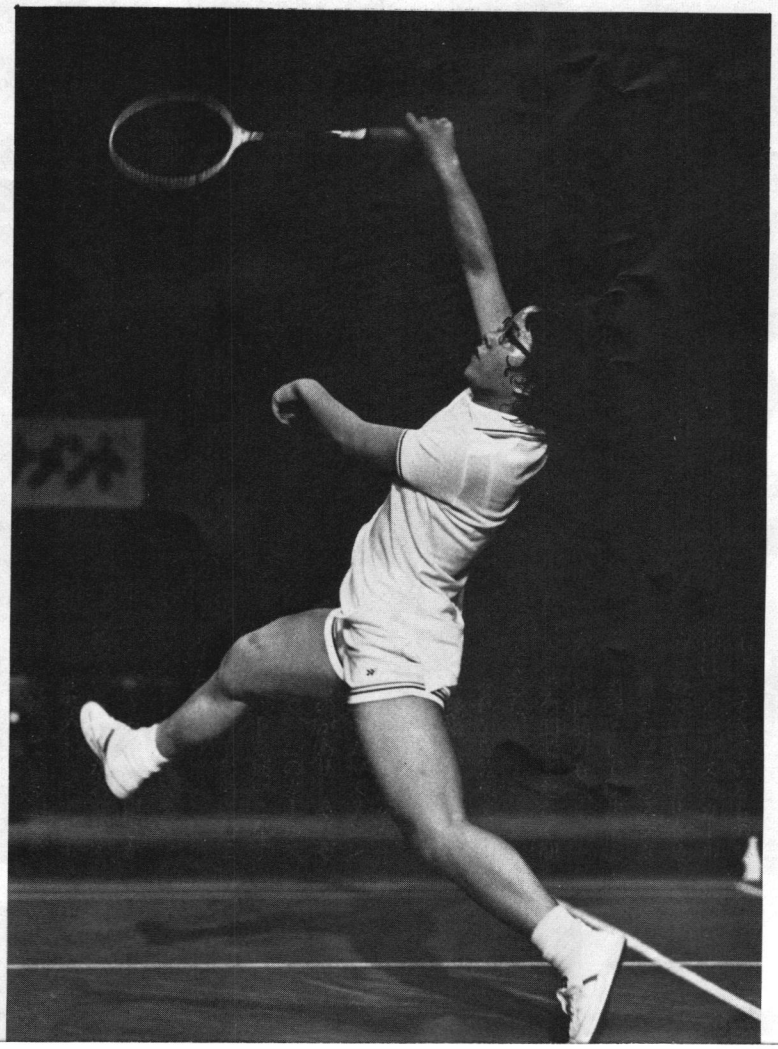


▲北島稔子

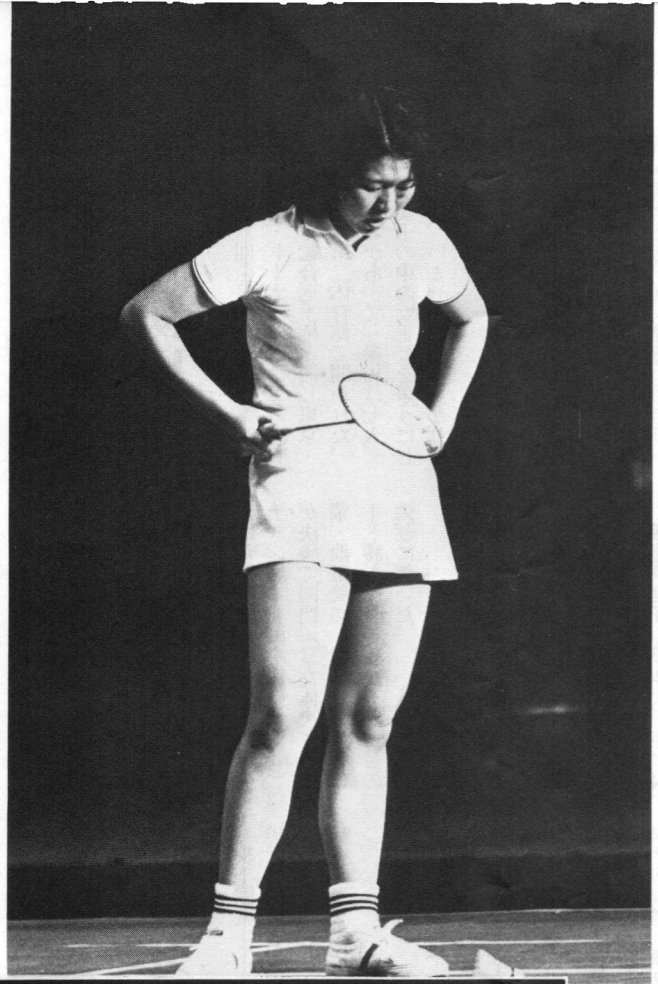


秋本幸子▶

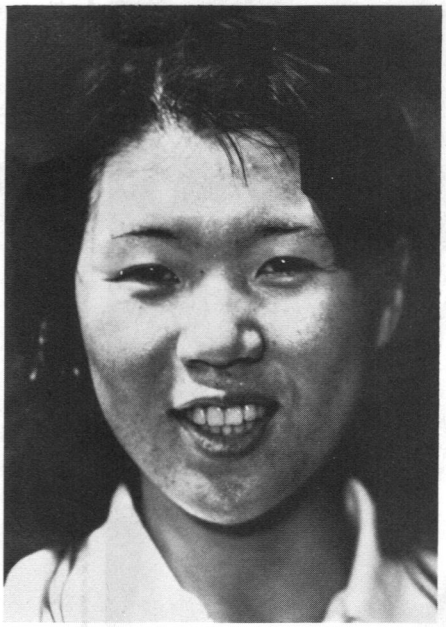




西尾真理子

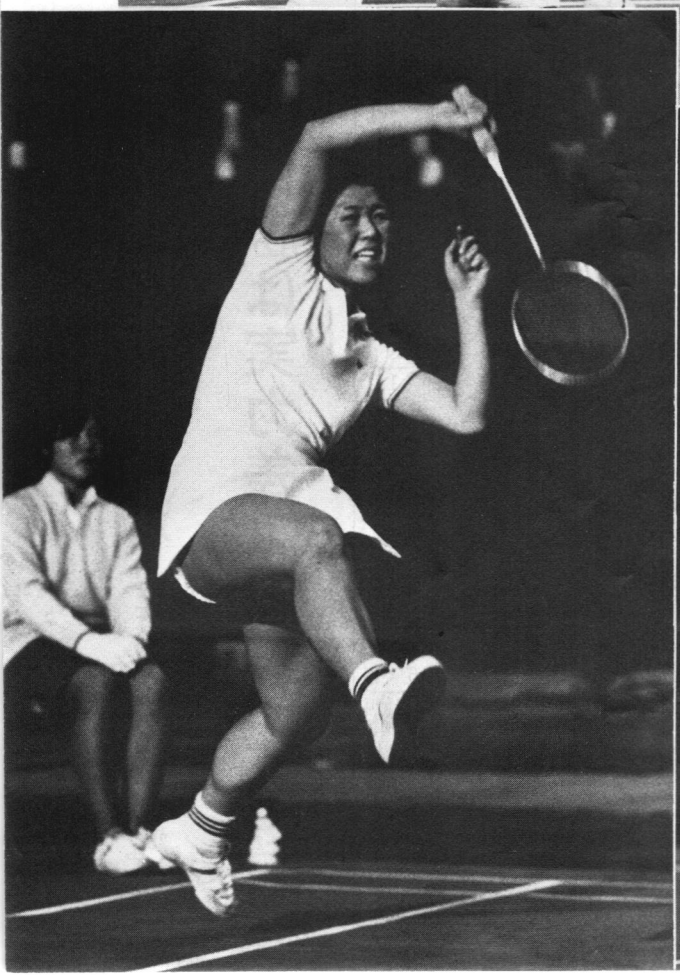


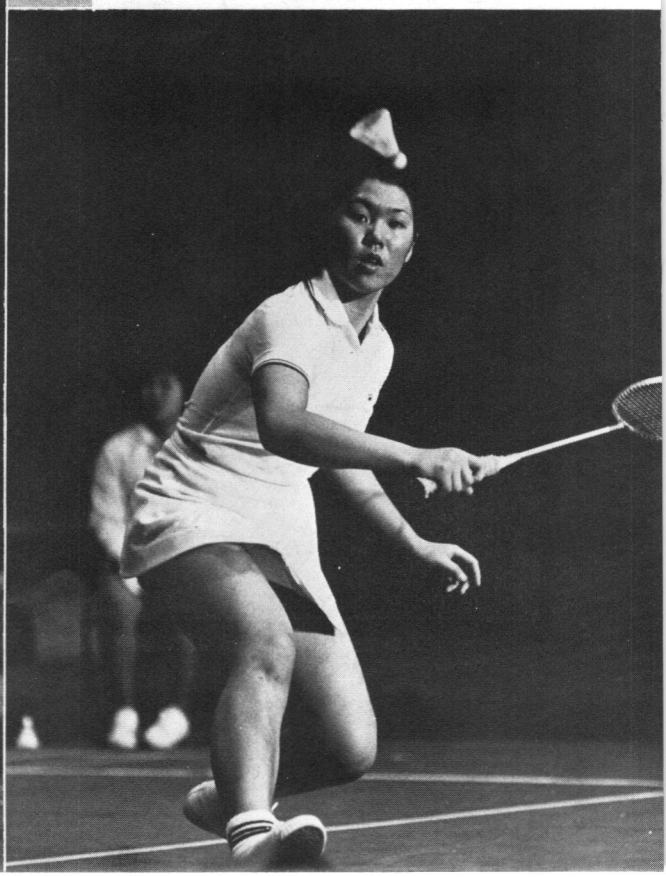
はつらつ ヤング・エミコ



屈託のない笑い

♥植野恵美子





第六回全日本女子チャンピオンズ・トーナメント

新星・植野 池田にあと一歩……優勝は実力差で湯木

第六回全日本女子チャンピオンズ・トーナメントは二月二日、全日本総合選手権と同じ東京・代々木第二体育館で開かれた。欠場者があって、参加は七人。〝女王の中の女王〟を争うにしては、いま一つの盛り上がりに欠けたが、実力NO・1の世界チャンピオン湯木博恵（河崎）が決勝で同門（日女体大）の後輩・池田美加（河崎）にストレート勝ち。三年連続、四度目の栄冠に輝いた。



身上の粘りをみせた北島

第六回大会出場者

湯木博恵（河崎ラケット）74年全英選手権単優勝。同全日本総合選手権単・複優勝。

池田美加（河崎ラケット）74年全日本総合選手権複優勝、単2位。複で湯木のパートナー。

北島稔子（日体大出、島根県大東高校教員）74年全日本教職員選手権単優勝。

西尾真理子（日体大三年）74年全日本学生選手権単優勝、複準優勝。

秋本幸子（大阪・四条畷学園高出、同短大一年）74年全日本学生複優勝、単2位

植野恵美子（大阪・四条畷学園高二年）74年全国高校選手権単優勝。



植野のガンバリに苦杯を喫した徳田

▽1回戦

植野恵美子（不戦勝）秋本八代美

秋本幸子 2（11-8, 12-11, 9-11）1 北島稔子

▽2回戦

植野恵美子 2（11-3, 11-8）1 徳田敦子

西尾真理子 2（11-3, 5-11, 11-2）1 秋本幸子

▽準決勝

池田美加 2（11-9, 12-10, 2-11）1 植野恵美子

湯木博恵 2（11-2, 11-6, 12-11）1 西尾真理子

▽決勝

湯木博恵 2（11-2, 11-8）0 池田美加

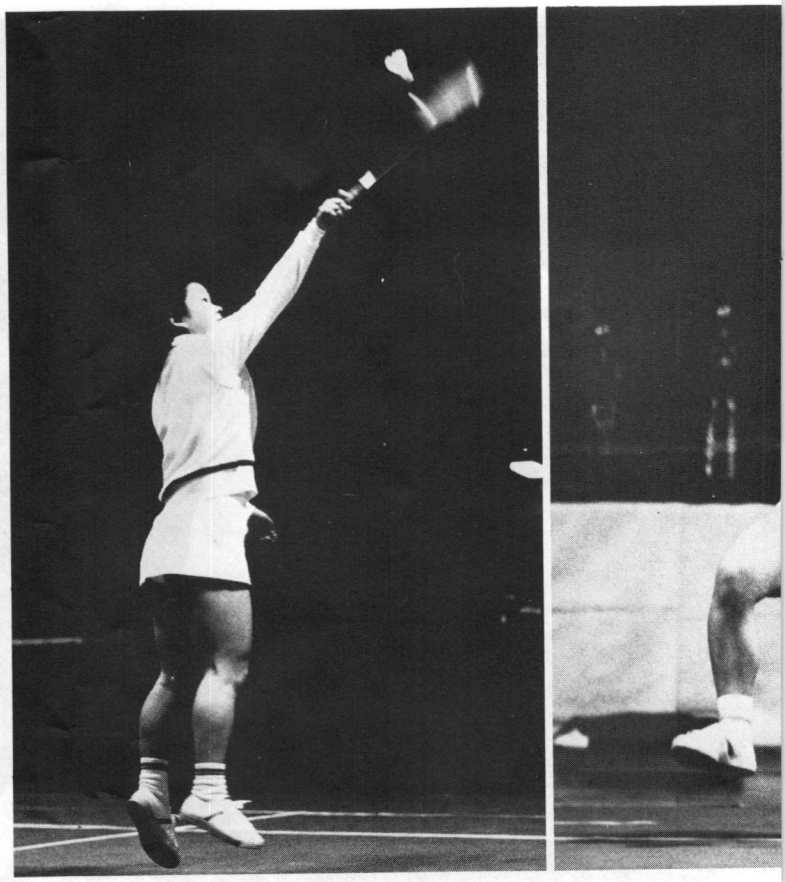
大会の参加資格

このチャンピオンズ・トーナメントは、69年6月、東京で開かれた第5回ユーバー杯女子世界選手権大会後、日本の初防衛を記念し、かつ、女子バドミントンの国内での普及発展の一助にということで、東京12チャンネル・テレビのご協力を得て誕生した。優勝者には、日本バドミントン協会森友徳兵衛副会長が寄贈した〝森友杯〟が贈られる。

このような趣旨なので、参加資格は国内公式競技会（全日本総合、全日本実業団、全日本社会人、全日本学生、全日本教職員、全国高校の各選手権）と主要対外試合（全英、全デンマーク、全米、全カナダ、世界招待、アジア大会、アジア選手権など）のシングルス、ダブルスの優勝者が原則。

つまり〝女王の中の女王〟を決めようというものだが、一人がいくつものタイトルを独占したり、故障等で欠場者が出たりすることもあるので、その場合には準優勝者を推選、決定する。

試合はシングルスのトーナメントを原則としているので、ダブルスのタイトル保持者でも、この大会ではシングルスしかプレーできない。

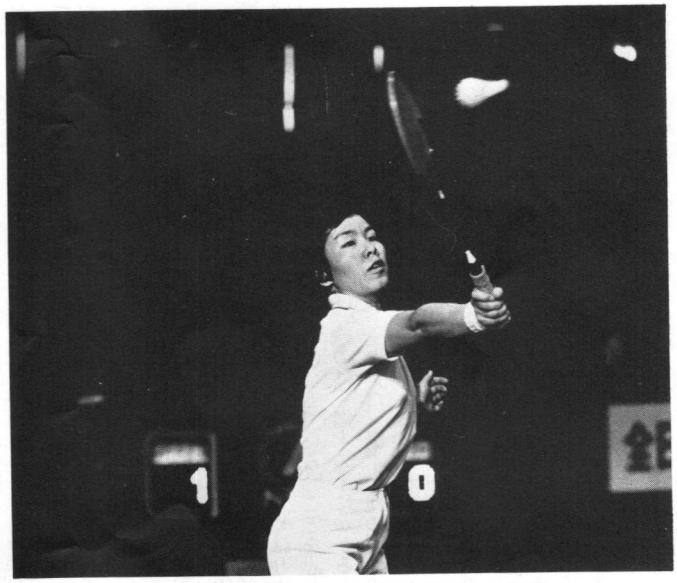


秋本のバックハンド

全日本女子C・T歴代優勝者

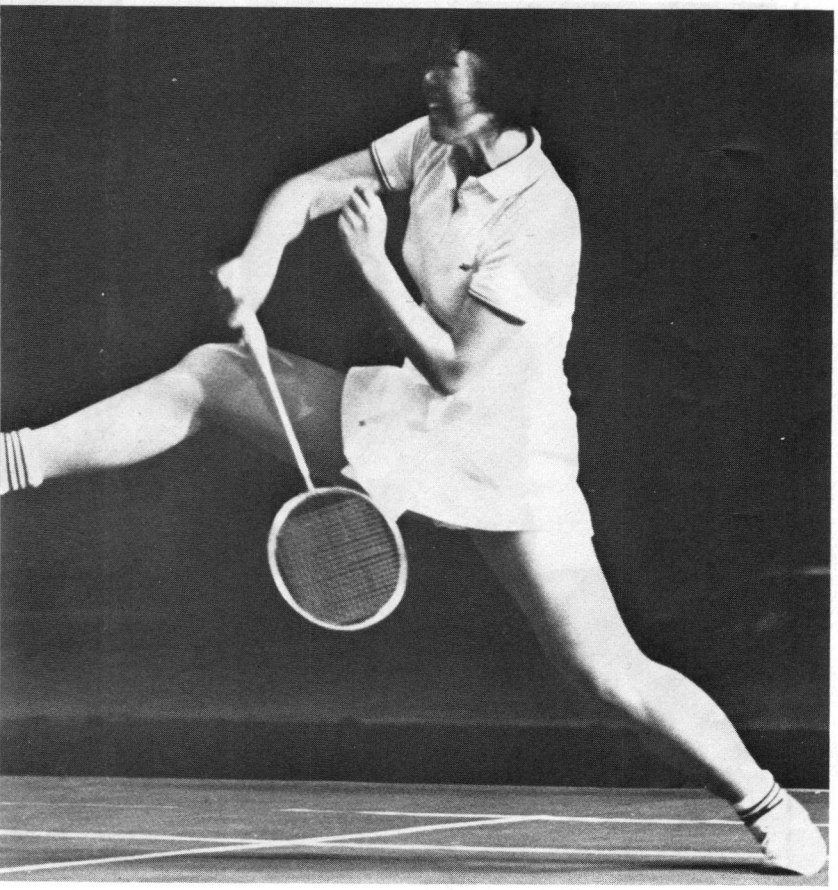
①	1970年	湯木博江	
②	1971年	高木紀子	
③	1972年	中山紀子	
④	1973年	湯木博江	
⑤	1974年	湯木博恵	
⑥	1975年	湯木博恵	

（注）　高木は中山の旧姓。湯木は74年から改名。



植野に王手をかけられたが貫録で逆転した池田

評……予定よりさびしくなった一日の中で、植野の健闘と湯木の貫禄ぶりが光った。植野は全国高校選手権では優勝しているが、国体では大塚（新潟・青陵）に敗れ、年末の全日本選手権でも初戦でベテラン塩崎（志貴野高教員）にストレート負けしている。それからわずか一カ月、これほどやれるとは、正直なところ、思っていなかった。



全力のスマッシュを放つ植野

2回戦の相手・徳田は母校の先輩であり、ナショナル・チームの一員、全日本総合のベスト4。常識的な〝興味〟は、勝敗ではなく、植野が徳田から「何本とれるか」だった。事実、第1ゲーム序盤の経過は、それを裏書きするように、徳田のペースだった。しかし、記者席がちょっと目を離したスキに、ペースの逆転が始まっていた。

徳田の攻めダマはバックサイド中陣からのストレートとフォアの逆クロス。ところが植野がしきりに徳田のバックサイド前陣にタマを落とし、そのリターンを鋭くフォア前陣へ振った。これで徳田は守勢に立たされてしまった。

もっとも、こうなるまでの問題として、両者のバックハンドとフットワークの差、そして、とにかく一本、深く返しておけばという3球目をいつの間にか忘れてしまっていた点があげられる。

植野のハイ・クリアーにはきちんとした押しがなく、フライトの速度もゆるい。しかも、ネットプレーも決してうまいとはいいかねる（ヘアピンの返球などはネット上辺30㌢も高く越すことがしばしば）。徳田が基本的な〝四つ相撲〟の上に立って活路を見出すつもりなら、ペースを相手に渡さずに済んだかもしれない。徳田に合宿疲れというハンデがあったにしろ、コンセントレーションの悪さは、依然、問題として残る。

一方、植野の資質は続く準決勝・対池田戦でさらに発揮された。一つは、非常に冷静だということで、これは〝ウォッチ・ボール〟の判断、配球の判断に適確に現われた。

第1ゲーム、池田がまずポイントを先行したが、その後は1―8から2点目を追加しただけ。その間、5本のサーブ権を手にしたにすぎなかった。第2ゲームも、たちまち植野4―0、9―1。ショットに角度があり、コースの選択力も抜群。とくに相手中後陣へのクロスの強打が光った。

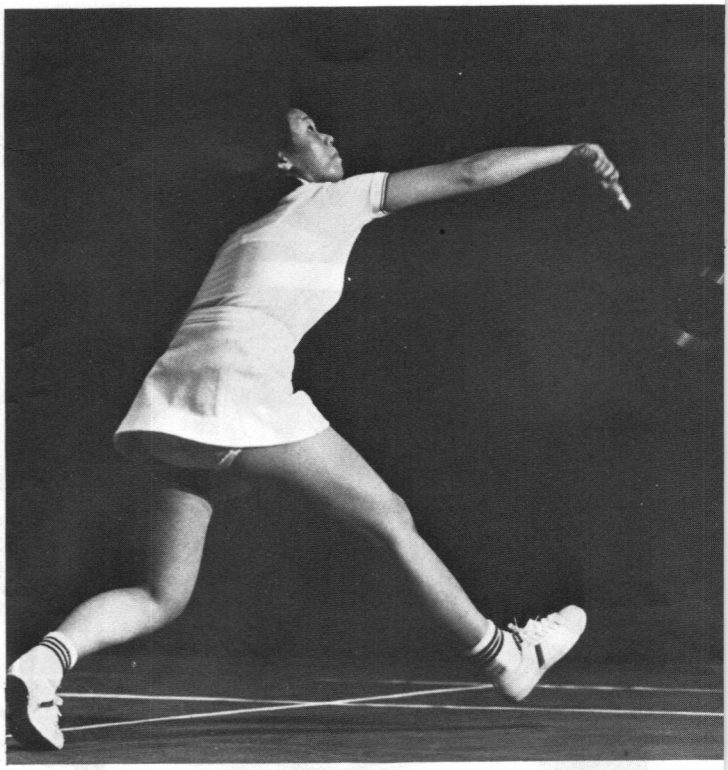
が、残念なことに、ここからペースは池田のものになる。池田は1―9からサービスをショート・サービスに切り換え、レシーブにとまどう植野をしり目に、たちまち9―7と迫る。このあと植野が1点とりマッチポイントを迎えたが、この正念場に、池田は〝全日本2位〟の地力を発揮した。

一方、さすがの植野も余裕を失ない、3球目あるいはレシーブから攻撃を仕掛ける。こうして、強打したレシーブで9点目を献上。さらに10点目をヘアピン・ミスで追加された。この間池田は植野のマッチ・ポイントを3本抑えた。セッティングを待たず、心理的ペースは池田の手に握られていた。

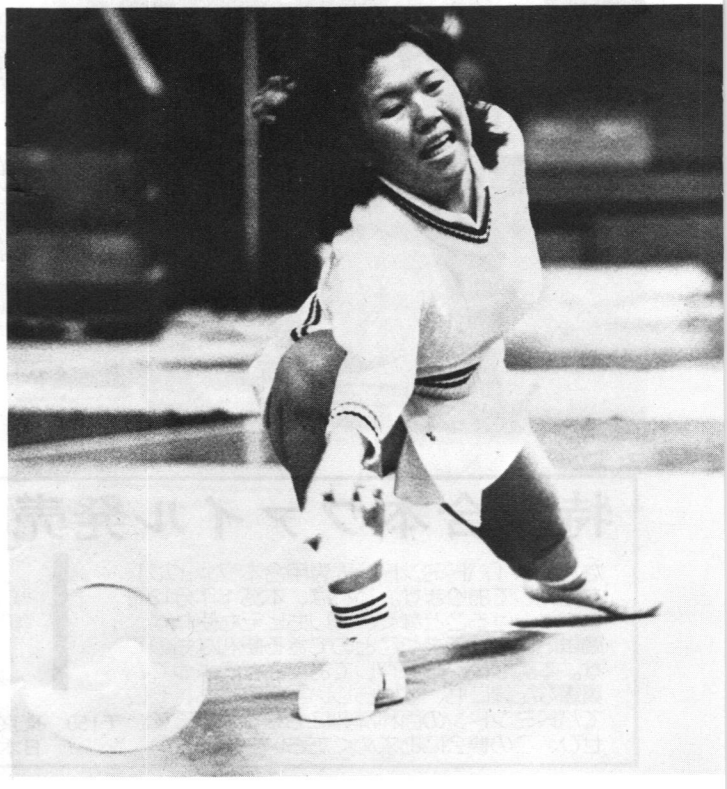
一方のパートからは、湯木が西尾を破って勝ち上がり、決勝でも池田に楽勝した。池田も西尾も、他の選手と対戦しているときには「最近、やはり力をつけてきている」ことを思わせるのに、湯木の手にかかるとイチコロだ。湯木と他の選手の差はいろいろあるが、その一つはプレーが〝四角をたんねんに、きちんと突く〟という土台の上に乗っていることだ。そして、これだけは、どんなプレーヤーも学んで損のないものである。

（後藤忠弘）

大型ホープ登場
――ユ杯候補徳田に快勝



バックハンドにフォアハンドに走り回る植野



ユーバー杯を前に、全日本トップ級の一部が低迷を続け「防衛危うし」の声すら聞こえる昨今だが、やはり〝クサッてもタイ〟か、有望新鋭は次から次へと出てくる。

全日本総合で注目されたのは井上（日体大）近藤（日女体大）ら。いずれも、ナショナル・チーム合宿に、練習要員として参加したメンバーだけに、小飼栄一監督も「どうです、先見の明があったでしょう」と鼻をうごめかしていたが、このチャンピオンズ・トーナメントでは、それら新鋭をしのぐ〝希望の星〟が誕生した。もちろん、植野恵美子選手だ。

1㍍64、57㌔。トップ級選手としては1㍍66の池田美加選手と並ぶ立派な体格。ユ杯候補の徳田を破り、第二のエースと期待される池田まで徹底的に苦しめたとあっては、コートサイドの小飼監督や福井正康コーチらの表情も複雑。「堂々とした試合運びで、どちらが代表かわからないほど。今度（6月）は間に合わなくても、次回は主力になりそうだ」とほめる。

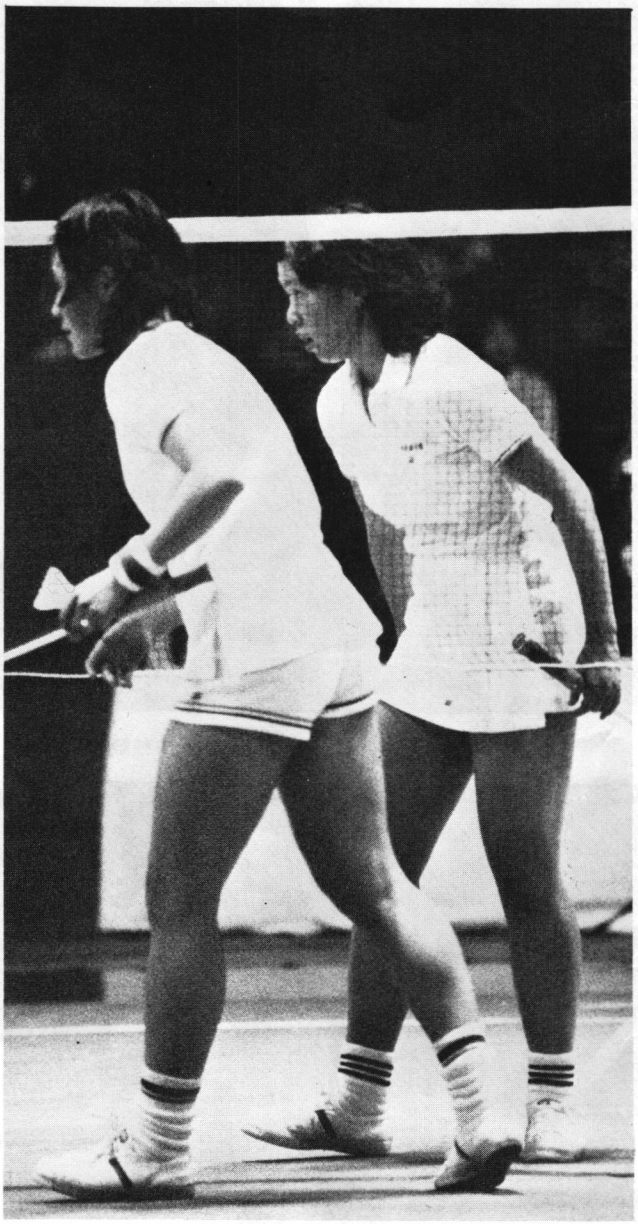
2回戦の対徳田戦の前「コロっと負けるだろう、イチかバチか捨て身でやってこい」と片岡先生（四条畷学園コーチ）にいわれたそうで、事実、同先生の記者団への予想も「7－3で徳田」だったが、結果は逆。

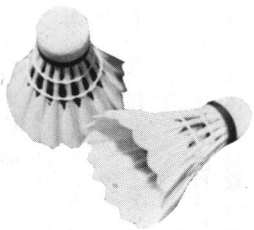
準決勝は第2ゲームのヤマ場で「池田さんのショート・サービスをどこに返していいかわからなくなって」負けてしまったとのこと。「早く勝ちたいという意識が出て、相手のミスを待つ守りのペースになったのがまずかった。ぜひとも湯木さんとやってみたかったのに」と言葉にはくやしさがにじんだが、顔には「自信がついた」という表情がたっぷり。

苦戦した池田は「植野さんのドロップ・ショットは、ものすごくキレがいい」と感心する。高校生といえば、とかく「インタハイで勝つため」固めがち、固められがちの選手が多いなかで、植野は欠点もあるが、ぼうようとしてスケールの大きさを感じさせる。「久しぶりに出てきた大型新人ですね。これからじっくり育てていきたい」。この大会にカップを寄贈している森友徳兵衛・日本協会副会長もメガネの奥で目を細めた。

（G）

先輩・ユ杯候補徳田(左)を堂々と倒した植野





ヘアピン

○…一流ばかりを揃えた大会ながら、このトーナメントは、一度、駒沢屋内球技場（東京オリンピック・バレー会場）でやった以外、これまでは日本バドミントン協会のある岸記念体育会館の地下コートが〝フランチャイズ〟観客も数百人どまりしか入れなかった。

今度ようやく全日本や国際大会もやる代々木第二体育館に進出した。入場料が一般三百円、高校生二百円、中学以下無料の大サービス。「多くの人々に見てもらいたい」（協会事務局）からで、一時は八百枚の一般券が足りなくなるのでは…と心配したほど。会場入口に並べた本誌、「バドミントン界」も2百部売れ、年間購読の予約もあいついだ。

○…準決勝までの間（テレビ放映された）を利用して行われた、初めての試みが初心者向けの技術講座。入場者からアンケートをとり、湯木選手を講師にする予定だったが「試合が残っているので、まずい」ということで、急ぎ片岡輝明・四条畷学園監督が、かり出された。

チャンピオンズの出場七人のうち四人（西尾、秋本、徳田、植野）までが片岡先生の教え子とあって、スタンドも大喜び。時間の関係でバックハンド、それも、同学園でやっている練習方法の一端を紹介するにとどまったが「秋本さんはバックが得意なので、フォアの球も無理してバックでとったりして、勝っている試合でも負けたりするクセがあります」うんぬんと大阪弁の〝ユーモアたっぷりの解説がつき、スタンドでは「試合より面白い」評判も上々。

協会事務局も気をよくし「機会があれば、もっと力を入れ、ファンとともにある協会になりたい」と語っていた。

特製合本ファイル発売

ただいま「バドミントン界専用合本ファイル」を発売しております。これは、本誌1年分12冊を穴をあけることなく、ノリもヒモも使わず、簡単に保存しておくことのできる便利なものです。本誌は長い間保存しておくことによって、貴重な記録にも、すばらしい写真集にも、そしてバドミントンの百科辞典にもなるものです。ぜひ、この機会にお求めください。

お申込み方法＝ファイル代1冊・600円に全国均一送料を加え、必ず現金書留でバドミントン界編集部あてお送りください。

全国均一送料＝
1冊・150円、3冊まで350円、4冊まで400円、11冊まで500円、15冊まで600円、20冊まで700円、21冊以上1冊増すごとに30円増し

〒150　東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育館内
日本バドミントン協会・バドミントン界編集部

バドミントンのすべて
ABC教室
連載〈第一回〉
ラケット、ウエアは念入りに選ぼう

今回はバドミントンに必要な用具数のかずかずとウェアについてです。

まず、ウェアからいきましょう。そこでウェアに関するルールはどうなっているかを調べてみると次のようになっています。（日本バドミントン協会の規定する「大会運営規定」第39条～40条）。

『プレーヤーは運動着と運動靴を着用する。着衣は、ブレザー・コートをのぞきすべて白単一色を原則とし、バドミントン競技の品位を保つために、本会が推薦するものを限度とする。

男の下衣は長ズボンまたは半パンツ、女子はスカートとショーツまたは半パンツ、ワンピースを着用する。

プレーヤーは相手または観衆に異様または不快な感を抱かせる服装をしてはならない。

防汗または整髪のため白い運動帽または白い鉢巻をよしとするが、体裁よく着用または結ばなければならない。』

つまり、日本バドミントン協会の審査に合格したウェアを着ればよいわけですが、右の規定は、日本バドミントン協会の主催する試合や、その規定に従って運営される試合に出場する際に守らなければいけないルールですから、もちろん練習中には何を着てもよいわけです。

また、その試合にも、審査合格のウェアを着なければいけないというのではなく、それを一応の目安というか、参考というものと考えてよいでしょう。

これをわかりやすく説明すると、バドミントンの試合に出場するときは、白いシャツ、白いショートパンツ、白いソックス、白いシューズをはき、線などの柄がはいる場合も、ごくわずかで細いものということになります。事実日本バドミントン協会の審査合格のウェアには青、緑などの細いラインのはいっているスマートなものがたくさんあります。

また、シャツの左胸に、そのメーカーの商標ともいうべきワンポイントがはいっているものがほとんどです。

◆シューズ◆

シューズは、バドミントンの激しい動きにも耐えられるようなものでなければなりません。全力のダッシュ、急激なストップ、素早い反転というように、次から次へと小きざみな動きについていくためには、底に小さい幅で多くの溝が必要です。

また、かかとやひざを保護するために、底にやわらかいクッションのあるものが必要です。そこで、その要求に十分こたえられるバドミントン・シューズがいくつかの専門メーカーから発売されていますので、それを店頭で十分試してみたうえで、買うのがよいと思います。

ただ値段が二千二、三百円と高いのが難点です。しかし、足はバドミントン・プレーヤーにとってかけがえのないものですから、初めから良いものを選ばなくてはならないでしょう。

◆ソックス◆

シューズとともに足を守るのに欠かせないものがソックスです。ソックスもやや厚手のものが適当です。いわゆるパイルのものが多く発売されていますが、ゴルフ・ソックスのように、足の裏の部分だけ、他の部分より厚くしたものがありますが、これは、非常にはきやすいものです。

ソックスの新しいものは、どうしてもすべりますから、試合の時などは、一度洗ったものをはいたほうがよいでしょう。

値段は、だいたい五百円から七百円くらいです。

◆ショートパンツ◆（スコート）

ショートパンツは以前は、後ろにゴムのはいったものでしたが、最近ではベルトレス、生地はストレッチといって伸び縮みするものが主流になっています。

バドミントン、テニスのメーカーから各種のものが発売されていますが、デザイン的にも各種あり、好みに合わせて選ぶのがよいでしょう。女子の場合はスコートと呼ばれるショート・

スカートやワンピースが数多く発売されています。

◆シャツ◆

シャツは半袖、長袖いずれも綿のものと、化繊を混ぜたものがありますが、綿のものの特長は、汗をよく吸いとること、合繊のものは動きやすいということです。

しかし、綿は縮みやすいこと、合繊は汗をあまり吸収しないといった短所があり、一長一短というところです。

値段は、半袖が千七百円前後、長袖がそれより二百円ほど高いようです。エリ付きのものと、ハイネック型のものがあり、これもデザインをよくみて、好みに合わせるとよいでしょう。



ウェアは上から下までいろいろあって目うつりがしてしまいます

◆ウォームアップ・ウェア◆

以上のものが、最低限度心要なウェアですが、このほかに、ウォームアップ・ウェアと呼ばれるものがあります。

まず、トレーニングパンツ。これは説明するまでもないと思いますが、最近は、働きやすさという点から、タイツが圧倒的に利用されています。第一線の選手たちも全員といってよいほど、タイツを着用しています。

上衣のほうも、タイツとペアになったジャンパースタイルのものが非常に多く用いられています。特に冬、春先といった寒い時期には、ウォームアップウエアは欠かせません。

また、もうひとつチョッキもあったほうが便利です。チョッキはゲーム開始後も、肩が完全に暖まるまで着ていることができ、動きをあまり妨げないのがよい点です。

しかし、試合の際は、コートにはいった時には、念入りな準備をすませて、体が暖まりきっていないなどということがないようにしなければなりません…‥これは余談ですが……。

さて、以上でウェアに関するものはすべてそろいましたが、要するに、規定にもあるように〝相手や観衆に不快な感じを与えなければ〟よいわけで、なにも一度に全部そろえなければいけないというものではありません。

最近のように、何かと物価の高い時ですと、こういったウェアの値段も決してバカにならず、最初のうちは、必要最小限なものにとどめ、順に必要に応じて買い求めるべきでしょう。

そして、ウェアよりも大切なもの、そうです、いよいよラケットについてです。

◆ラケット◆

(1)種類

ひと口にラケットといってもいろいろな種類がありますので、それを紹介しましょう。

●ごくふつうのもの

フレームが木製で、シャフトがスチール製のものです。

●シャフトが長いもの

フレームの〝いちょう〟と呼ばれる部分が小さく、その分だけシャフトが長くなっているものです。これが現在の主流となっていて、しかも、このシャフトを細くしたものが多くなっています。

メーカーの説明では、このほうが反発力が強くなるということですが、事実、そのようです。

●オールスチール製のもの

これは文字どおり、フレームもスチールでできているものです。最初は、イギリスのカールトン社のものだけしかありませんでした。重さも一二〇グラム以下という当時としては非常に軽いもので、反発力も強く、一時は女子選手の間でまたたく間に広がりました。

しかし、それから数年後には国産のものが登場し、現在では性能の面でも優劣つけがたく、シャフトを二本にしたものや、材質にアルミニウムやステンレスを使ったものがあり、それぞれに特性が強く、このオールスチール・ラケットを使いこなすには、時間をかけて打ちこむことが必要です。

オールスチールの軽量ラケットというと、とかく女子用とか年配者用という感じがありますが、男子の世界のトッププレーヤーの中にも使っている選手がいます。

特長はかなりムリがきくという点があげられますが、ジャストミートしないとコントロールが狂ったり、ネットプレーなどの際にポップアップしたりするという欠点もあります。

(2)選び方

ラケットの選び方は、まず重さとバランスです。

重さは、一一五グラムから一三〇グラムの間までが適当でしょう。

ただし、一三〇グラムほどのラケットでも軽く感じたり、一一五グラムのラケットでも重いなと思うことがあります。これが〝バランス〟なのです。プレームの部分が重ければ当然重く感じますし、グリップの部分が重ければ、振った感じが軽くなるのです。

どちらのバランスのものを選ぶかは、店頭で何回も振ってみて〝いい感じ〟のものにすべきです。

そして、手のひらによくなじむグリップのものでなければなりません。グリップの太さは、各メーカーとも三～五種類のものを作っていますので、もっともしっくりするものを捜してください。

ただ、グリップの太さは、その日の調子や、ダブルス、シングルスの違いで感じがかわりますから、すべて同じ太さのものにしないほうがよいかも知れません。

結論としては、ラケットを選ぶには、実際に手にとってみて、振り回してみることです。重さが何グラム、バランスがグリップエンドから何センチ、グリップが何インチというように細かく数字を並べて、それに一致するものを捜すよりは、手のひらにしっくりとなじみ、振った感じのいいものがピッタリなのですから……。

◆ガット◆

ラケットの相棒はガットです。現在、もっとも普及しているのがナイロン製のもので、各メーカーから発売されているものです。値段も三百円前後で、耐及力もあり、反発力も十分です。

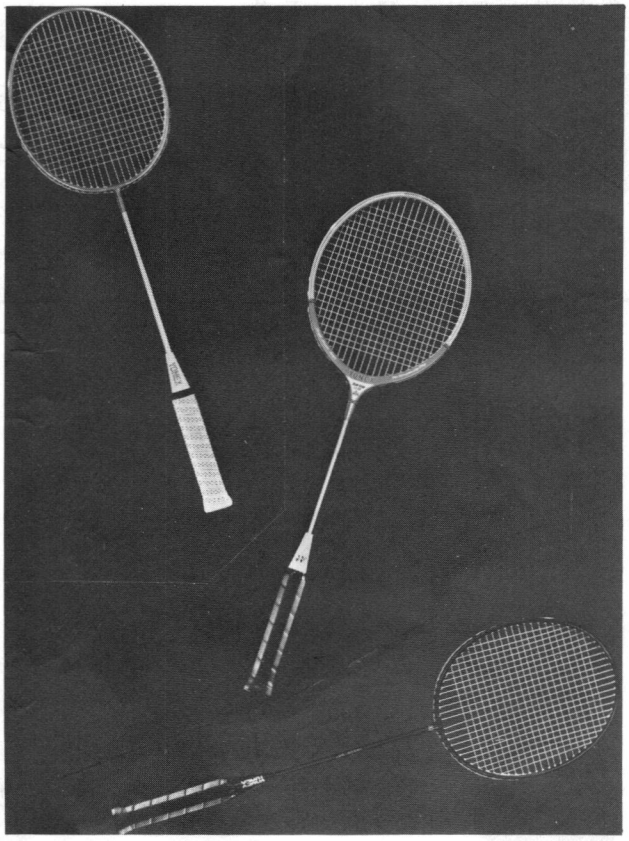
最高級の選手用のものに、ナチュラルシープがあります。これはヒツジの腹をさいて、さらにそれをより合わせたもので、太さ（ゲージ）が三種類ほどあり、細いものほどよく弾き、打球感がよいものです。

シープの特長は、シャトルを打つときに、ガット面に吸いつくような感じがして、コントロールが正確につき、ネットプレーなど細かいプレーの際には、その差がはっきりとでます。そして弾く力はナイロンのものに比べて遙かにすぐれています。

しかし、値段が非常に高価なこと（一張り＝三千円前後）、ジャストミートしないと切れやすいことなど、問題もあります。

つまり、この高価なガットの特長を生かすためには、かなりの実力がついてからということになるのです。

初心者がシープを使っても、切れるばかりで、まったくムダなことになるといってもよいでしょう。



ラケットを選ぶ時はたっぷり時間をかけて

◆シャトルコック◆

大きく分けて三種類あります。水鳥、陸鳥、合成のもので、大きな大会で使用されているのが水鳥球です。飛び方も安定しており最適ですが、一ダース三千円前後と高価のため、練習にはとりあえず陸鳥球でもやむをえないでしょう。

合成シャトルもかなり改良されてきていますが、まだまだ鳥の羽根の特性には及ばず、さらに改善されてほしいものです。

◆心さえあれば！◆

これで準備は整いました。あとはこの道具をどう使うかです。しかし、大切なのは中身です。最初のうちは、そんなに立派なスタイルにしなくてもいいのです、心さえはいっていれば……

（次回は、基本的ルールとスコアリングについてです）

各地のたより―北から南から

秋田高校VS黒石高校定期戦
二十回を記念して盛大に開催

恒例の秋田高校対黒石高校定期戦は今年で二十回を迎え、記念大会として、黒石高校体育館にて行なわれました。

⊙秋田高校対黒石高校定期戦第二十回記念大会・11月22日、23日・黒石高校体育館

秋田高校 3（単2―1 複1―1）2 **黒石高校**

高嶋	2	15―15	15―12	15―8	1	阿保
金谷	0	3―15	3―15	1―15	2	種市
宮越	2	11―15	17―15	15―4	1	山田
脇坂 松橋	2	15―5	10―15	15―6	1	佐々木 岸

秋高OB 4―1 **黒高OB**

高嶋	2	15―10	15―5	15―17	2	阿保
宮越	2	15―5	15―10	15―17	0	種市
金谷 奥山	0	12―15	15―17	15―15	2	佐藤 土屋

高校生六十名をみっちり
杉田・小島ら熱心に指導

神奈川県

神奈川県協会は、2月1日、2日の2日間、藤沢市善行の県立スポーツセンターで高校生を対象とした強化合宿を行なった。

当日は、高校二年生、一年生男女約六〇名が参加したが、コーチ陣もそうそうたるメンバーで、一部のコーチは午後一時集合のところを、午前一〇時にコートの整備を始める張り切りよう。ちなみにコーチ陣を紹介すると、教職員から杉田・加瀬・瀬戸、社会人から小島（RS元町）実業団から山崎（関自）高橋（同）松本（横浜市役所）、学生から田島（日体）小山（関学）女子コーチも杉田夫人、藤原、入沢、遠藤、といったぐあい。

高校生はこのコーチ陣にコートの内外でシゴカした。コートは四面だったが、コートから出

伊嵯峨	1	10―15	0―15	15―11	2	小遠藤 倉
本山 根津谷	2	15―3	15―12		0	福士 今
根津谷 伊藤	2	15―3	15―8		0	加賀谷 加賀谷
松本	2	15―5	15―3		0	小加藤 山
沼田 柴田	2	15―4	15―13		0	中木村 山
安田 二瓶	2	15―5	15―3		0	大湯 船水
安田	2	11―3	11―7		0	中山
柴田	2	12―9	10―12	11―8	1	船水
二瓶	2	11―1	11―0		0	山谷

高敬愛 5（単3―0 複2―0）0 **高黒校石**（女子）

（資料提供・弘前市部谷光延様）

水鳥 検定合格球
ファストゴールド
ファストシルバー
全国大会使用球
ファスト印シャトル
コック 製造発売元
有限会社 ジャワ商会
山形市六日町7の28
電話0236(33)0333(代表)

ると直ちにフットワーク、腹筋、腕立て伏せといったプログラムを加瀬コーチの指導で矢つぎばやにこなす。

午後6時に第一日の練習を終えると高校生の間からは、加瀬コーチに対して〝鬼軍曹〟のニックネームが贈られ(?)た。

そして夕食後には、杉田、小島両コーチから細かい点まで指導を受け、高校生たちは、めったにめぐり合えないチャンスに熱心に耳を傾けていた。

第二日目は、早朝のトレーニングから、午前中の基本練習、をして午後はゲーム練習を行なった。しかし、人数の関係上、コーチ陣のほうがコートにはいる回数が多く、終了間ぎわにはコーチ陣にもかなり疲労の色が濃く、どちらにとってもよい練習となったようである。

二日間の合宿を終え、杉田コーチは、「泊りがけでなくてもいいから、こういった集中的な練習を毎月できたら、ずいぶん効果があがると思うんだが」と話していたが、今回の経験が布石として、今後に役立つことは間違いのないことであろう。

また、多忙なスケジュールをやりくりして、これだけのコーチ陣がそろうといったことも今後への明るい材料である。

とくに、小島選手と練習をする機会などほとんどなかった高校生たちは、「小島さんとシングルスをやらせてもらえるなんて……とても嬉しかった」と口々に話していたが、小島選手も「これからは機会をつくって高校生たちの指導にあたりたい」と意欲十分。

低迷気味の都会っ子たちから再びチャンピオンの登場することを期待したい。(編集部記)

湯木につづけ!! 地元岡山県で次々と好試合

バドミントン競技に積極的に取り組んでいる岡山県は、世界チャンピオン湯木博恵選手を生んだことでも有名ですが、昨年末から本年初めにかけて、各種の大会が大きな盛り上りのうちに行なわれました。

◎岡山県秋季バドミントン選手権大会・11月17日、24日・岡山大学清水記念体育館ほか。

▽男子ダブルス
一位＝上野・芳上(三井)、二位＝岡・田中(岡大OB)、三位＝野崎・山崎(岡大OB)、藤原・松井(三井)

▽女子ダブルス
一位＝三田・寺見(クラレ)、二位＝林・難波(岡大)、三位＝日笠・綾田(岡医)、藤原・矢切(岡大)

▽男子ダブルス
一位＝上野・芳上(三井)、二位＝北井(三石)、三位＝藤原(三井)、永井(川鉄)

▽女子シングルス
一位＝寺見(クラレ)、二位＝三田(クラレ)

▽男子シングルス
一位＝芳上(三井)、二位＝北井(三石)、三位＝藤原(三井)、永井(川鉄)

◎岡山県一般バドミントン新人大会・1月19日、26日岡山大学清水記念体育館ほか。

▽男子ダブルス
一位＝万代・石原(三井)、二位＝三宅・物部(住友重)、三位＝平田・藤原(三石・日旅)、小高・児山(津高)

▽女子ダブルス
一位＝守安・井上(清心女大)、二位＝高鳥・竹原(岡大)、三位＝土居脇・土岩(岡大)、難波・木村(岡大)

▽男子シングルス
一位＝平田(玉野クラブ)、二位＝大野(化成水島)、三位＝諏訪(岡大)、徳丸(岡大)

▽女子シングルス
一位＝田辺(山短)、二位＝竹原(岡大)、三位＝松岡(三井造船)、井上(清心女大)

(資料提供・岡山県協会)

ニチヤモリ
平均年令27才のヤングパワー。
(045)651-2020
●横浜市中区石川町2-84

ヨーロッパ遠征メンバーきまる

小島・池田・栂野尾・銭谷――中山・湯木・相沢・竹中・池田・西尾

トマス杯・ユーバー杯に照準を!!

湯木 二年連続三度の女王に意欲

ベスト4を死守するか 池田・栂野尾

今年は女子はいよいよユーバー杯防衛戦が五月末からインドネシアのジャカルタで、男子はトマス杯インターゾーン予選がそれぞれ行なわれるが、その前哨戦ともいうべき、全デンマーク選手権、全英選手権大会に日本は次の一〇名を派遣することに決まった。

〔男子〕
- ●小島一平（ラケットショップ元町）
- ●池田信孝（電電東京）
- ●栂野尾昌一（ヨネックススポーツ）
- ●銭谷欽治（中央大学）

〔女子〕
- ●中山紀子（神奈川県協会）
- ●湯木博恵（河崎ラケット）
- ●相沢マチ子（ヨネックススポーツ）
- ●竹中悦子（同）
- ●池田美加（河崎ラケット）
- ●西尾真理子（日本体育大学）

ダブルスのペアは、小島・銭谷、池田・栂野尾、湯木・池田、相沢・竹中、中山・西尾と組んで出場する。

〔スケジュール〕

3月4日＝東京を出発
3月8日～11日＝第23回全デンマークオープン選手権大会・コペンハーゲン市
3月13日＝日本対デンマーク対抗競技会・アールス
3月19日～22日＝第65回全英オープン選手権大会・ウェンブレー市
3月24日＝日本対英国対抗競技会・プレストン
3月28日＝東京へ帰着（予定）

今年の焦点は、まず湯木が全英選手権において、二年連続三回目の女子シングルス・チャンピオンの栄冠に輝くかどうかである。

湯木は一九六九年に中山紀子を、昨年はG・ギルクス（イギリス）をそれぞれ決勝で破って優勝しているが、今年も意欲は十分である。

かつての男まさりのプレーは影をひそめたが、かわって頭脳的ともいうべきコーナーワークのよさ、配球のうまさがでてきて、まさに油が乗り切っているところである。

先日の日英対抗第一戦の宇都宮大会で、G・ギルクスに完勝しているが、この時は、ギルクスの調整不十分、時差の影響などがあり、あまり参考にはなるまい。

湯木のライバルとしてあげられるのは、まず、ギルクス、マーガレット・ベックのイギリス勢であろう。高い打点からのスマッシュ、ドロップを軸にして早いテンポで攻めまくるギルクス、小柄ながらよく拾うベックとタイプは違うが、両選手とも湯木には恐い存在である。

昨年は出場しなかったが、今年もし参加してくるとすれば恐いのはインドネシア勢である。タティ・スミラが中心になると思われるが、他の選手は未知数といったところ。

あとオランダのプリンセス、

J．T．B．バドミントンツアー参加者募集

- ◇旅行期間＝昭和50年6月1日～6月8日
- ◇旅行日数＝8日間
- ◇旅行費用＝293,000円
- ◇コース＝東京～ジャカルタ（2）～デンパサール（3）～ジャカルタ（1）～シンガポール（1）～東京
- ◇観戦試合＝ユーバー杯準決勝戦　決勝戦
- ◇市内観光＝ジャカルタ、バリ島、シンガポール

お申込み、お問合せは
東京都港区新橋1－18－16
日生新橋ビル
（株）日本交通公社　新橋支店
（運輸大臣登録一般旅行第64号）
TEL．03－504－0631
（内線）70,63 係＝梶川，長尾，岩渕

ヨーケ・バン・ビューセコム、スウェーデンのベテラン、エバ・ツェドベリ・スチュアートといった選手がひしめいている。

湯木が不覚をとるとすれば、例によってスロースターターという弱点につけこんで、一気に攻めまくられるという場合であるが、最近精神面でも大きく成長している湯木であるから、二年連続の王座は大いに期待できるとみたい。

男子では、池田・梅野尾組が昨年のベスト4を死守し、さらに上位に食い込むか、ベテラン小島がうまく銭谷の強打を導いてどこまで進出するかが注目される。池田組はトマス杯戦ではダブルスの軸となる存在だが、ここでベスト4以内に残り、自信をつけてほしいものである。

一方、小島組はどこまでやるか全く未知であるが、可能性は大いにあろう。まだまだ荒けずりな銭谷だが、ミスを恐れず徹底的に攻めまくって、シードペアを倒して、国際大会での実績を残してもらいたい。

小島は、昨年末の全日本総合でアクシデントのため不本意な成績に終わっており、今回の全英選手権には、心に誓うものがあろう。

体力・技術面でも全盛時に近い回復をみせており、残るは気力であるが、持ち前のガッツで単複ともに好成績を残してもらいたい。

小島は銭谷と、中山は西尾とペア

女子ダブルスは苦戦か

女子は、赤信号がついたユーバー杯防衛に照準を合わせ、一ゲーム、一球たりともおろそかにせず頑張ってほしいものである。女子ダブルスは、昨年に続いて、M・ボクソール・P・ウエトナール組、ギルクス・ベック組のイギリス勢のカベを破るのは非常にふずかしいと思われるが、池田(美)の大健闘を期待したい。

相沢・竹中組は今年にはいってから、二人ともコンディションをくずしていることから、苦戦が予想される。

そして、現役復帰をはたした中山であるが、エントリーはダブルスだけで、シングルスには出場しない。

やはりまだまだ以前の状態にはほど遠く、どの程度まで試合カンをとりもどすか、というところであろう。西尾は、中山とのダブルスだけでなく、シングルスでもどん欲に勉強してきてほしい。他国のプレーヤーのよいところは片っ端から盗んでくるくらいの気構えで出発してほしい。

いずれにしても男女ともトマス杯、ユーバー杯といったはっきりした目標が、もう目前に迫っているのだから、なおいっそうの努力と自覚をもってヨーロッパ遠征に出発してもらいたい。

投稿をお待ちしています

中学校、高校、実業団、ママさんクラブ、そして同好会の皆さん！

あなたのクラブの紹介を、バドミントン界誌上に発表しませんか！

クラブの毎日、部員のようす、試合に参加した感想。なんでもけっこうです。グループにまつわる話なら、すべてお待ちしています。全国のグループがバド界の誌上を通じて友人になれるように、と考えています。枚数に制限ありません、できれば写真を添えてバド界編集部（右ページの広告の中に書いてあるところ）へお送りください。よろしくお願いします。

ヤマヤスポーツ
平均年令27才のヤングパワー。
(045)651-2020
●横浜市中区石川町2-84

編集室から

ようやく春らしい日ざしの感じられるこの頃ですが、読者の皆様はどのようにおすごしですか。

わがバド界編集部も、印刷費の値上りや用紙の値上りといった苦しい状況の中で、読者の皆様のご援助と、印刷所の方々の暖いご協力、協会事務局のご指導などによって、けんめいに頑張っています。

記事のほうもようやく厚味がでてきたという涙が出るほどうれしい声もチラホラ（……もっとも、まだまだ不満だッという声のほうが圧倒的に多いんですが……）、ますますヤル気になっています。

そこで現在、具体的に準備しているものをお知らせします。

①家庭婦人バドミントンコーチ体験談

いま全国的に広がりつつあるママさんバドミントンのコーチをしておられる徳重英樹さんの体験談です。どんなエピソードが飛び出すか楽しみにしてください。この連載には鴨池昌憲さんの楽しいイラストがたっぷりはいります。来月号から登場

②小島一平のガッツインタビュー

ガッツ小島が持ち前のファイトで、ラケットをマイクに持ちかえてインタビューする楽しい記事です。なかなか聞かれないホンネがでてくるかも知れませんね。大いに楽しみです。不定期構成

③連載マンガ？？？？

鴨池昌憲さんのマンガで、毎回4コマ。テーマはバドミントンのかずかず。残念ながらまだ名前が決まっていません。

来月号から登場しますが、読者の皆様からこのコンマの主人公の名前を募集します。

顔をお見せできないのが残念ですが、来月号に登場したら、すぐに応募してください。一人で何種類考えてくださってもけっこうです。

そのハガキの中から一つを選んで名前をつけますので……。そして応募されたハガキの中から抽せんで記念品を、名前に選ばれた人には、すばらしい賞品を用意しています。詳しくは来月号でお知らせします。

◇　◇　◇

本誌合本用ファイルは、相変らず皆様からのご注文が相次いでいますので、ご入用の方はお早めにお申し込みください。定価・送料・申し込み方法は本誌38ページをごらんください。

◇　◇　◇

読者の方々から**「バドミントン傑「写真集」**を出版してほしいというご要望が編集部あてに届いています。以前から何度か計画にのぼっては実現しないでいたものですが、編集部としても、目で見る基本フォーム集、決定的瞬間、スナップ、世界の名選手集といった構成で、定価一〇〇〇円くらいのものを出版できたらと考えております。

そこで、次のアンケートにご協力ください。

①写真集は（ぜひほしい、いらない）　②写真集の定価はいくらくらいがよいか　③どんな内容がほしいか

以上の3つの点について、ハガキでお答えください。大切な資料といたしますので、ぜひご協力をお願いいたします。

◇　◇　◇

今回で第二回を迎えた**「バドミントンのすべて――ABC教室」**についてのご意見をおよせください。ハガキでけっこうですから、どんな点でも気のついたこと、今後取り上げてほしいことなどお書きください。

GO!/GO!
ユ杯
V4作戦

第7回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）大会
日本代表チーム壮行試合

お見逃しなく!!

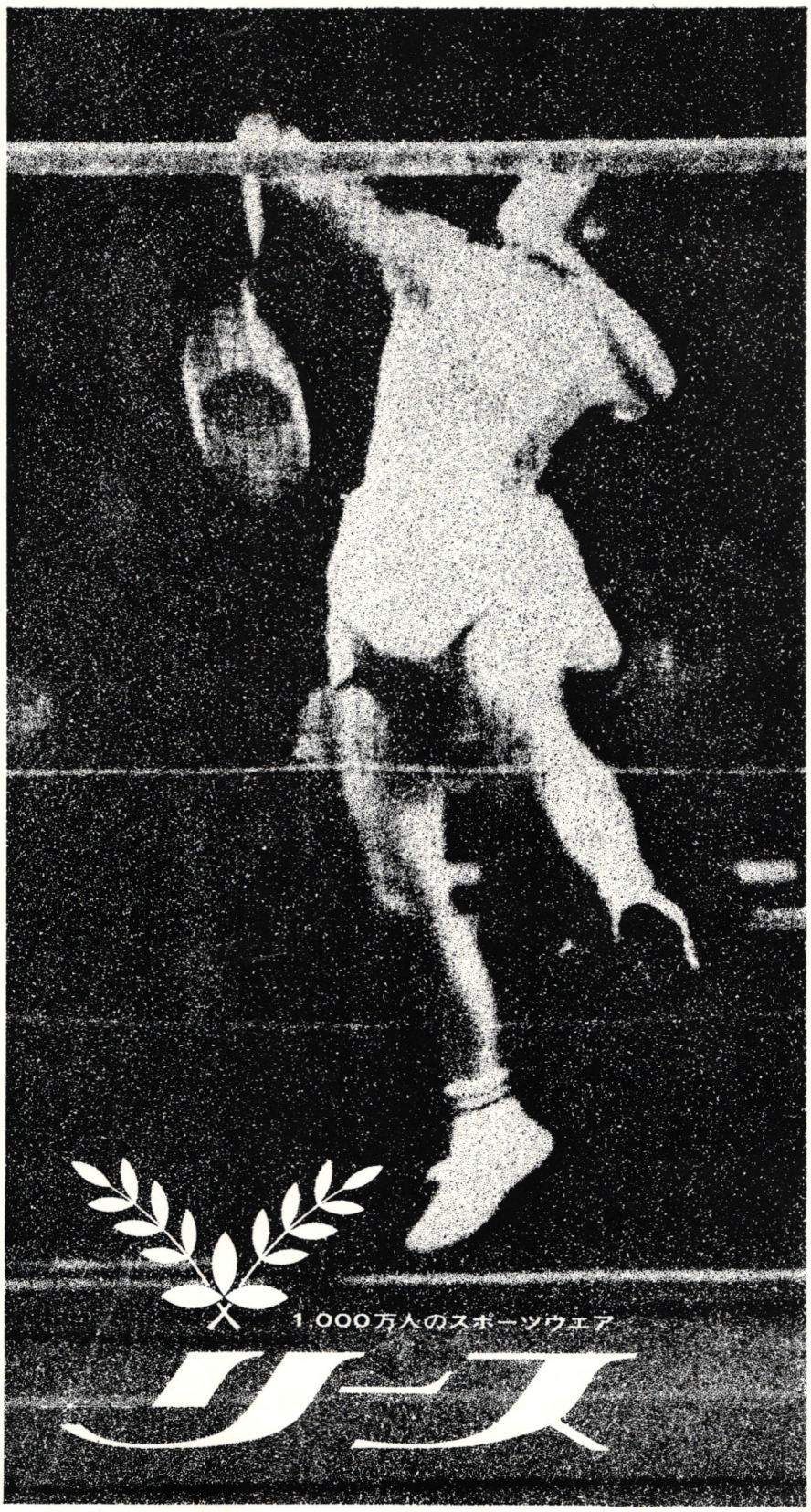
とき＝一九七五・四・二九（祝日）正午から
ところ＝国立競技場代々木第二体育館
前売＝一般四〇〇円（当日売五〇〇円）
　中・高校生二〇〇円（当日売三〇〇円）
前売場所＝日本バドミントン協会（☎〇三―四六七―三一一一内線三五一）

4/29

【バドミントン界】第64号
昭和50年1月25日　印刷
昭和50年2月1日　発行
編集兼発行人　秦　浩
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一
岸記念体育館内
日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）三五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二―二九
明宏印刷株式会社
定価　一部二百二十円

©無断転載を禁ず

この一瞬!!



あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件を
プレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

K TOKYO
河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 電話(831)-884-0453

月刊「バドミントン界」第54号　昭和五十年二月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所　東京都渋谷区神南一ノ一ノ一　日本バドミントン協会　定価一五〇円

No.9000 HIGH STAINLESS



未知のちからを隠しもつ

ステンレスのシャフト

しぶとい弾力。まったく鋭い切れ味。瞬間に炸裂する攻撃力。いままでのバドミントンラケットでは、とても出せなかった鮮烈なパワーです。シャフトにステンレスの特性を生かしきってありますから、難度の高いテクニックも思いのまま。これぞ、バドミントンを科学するヨネヤマの、新しい自信作です。その名をハイステンレス。その真価は、世界に点在する一流プレイヤーたちに問いたい。

No.9000ハイステンレス／¥3,800（フレームのみ）

ヨネヤマラケット